

○基本計画の名称：須賀川市中心市街地活性化基本計画（以下、「第2期基本計画」という。）

○策定主体：福島県須賀川市

○計画期間：平成31年4月～令和6年3月

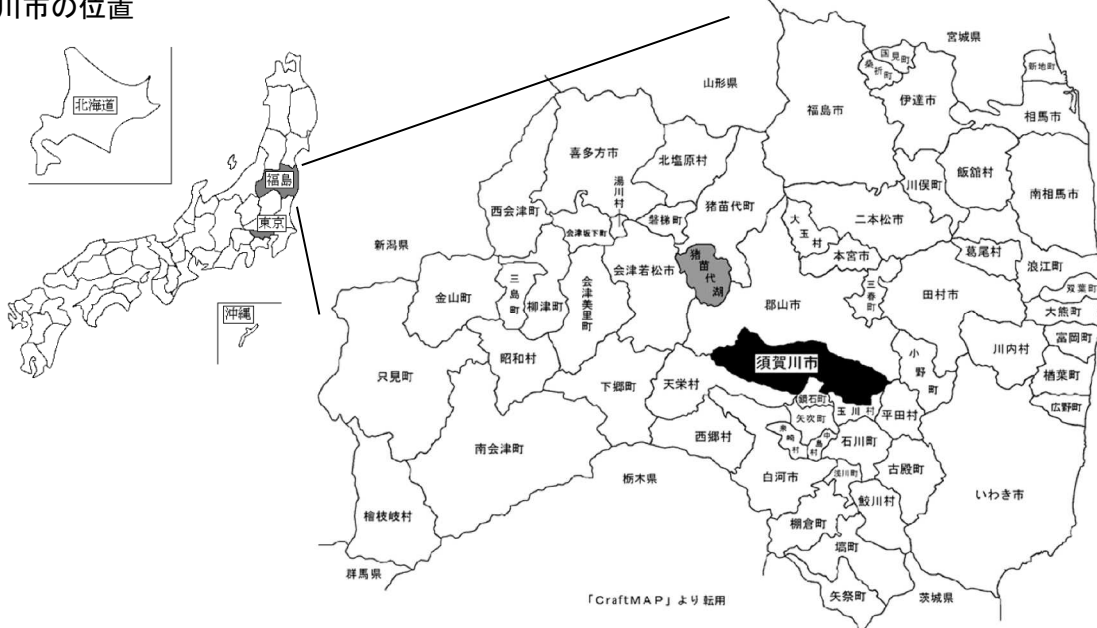
1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

[1] 須賀川市の現況

(1) 位置・地勢、気候

須賀川市は、東京から北へ約200km、福島県のほぼ中央に位置し、東西に約37.9km、南北に約16.5km、面積は279.43km²を有し、北は郡山市、南は鏡石町及び玉川村、東は平田村、西は天栄村に接している。

■須賀川市の位置



本市は、国道4号を挟んで東西に伸びた形状をなしており、中心市街地は南北に馬の背のように伸びた丘陵地に広がっている。東に阿武隈高地、西に奥羽山脈の山々が連なり、その間の中央部に平坦地が広がっている。市の中央部を南から北に向かって流れる阿武隈川、西部の山岳地帯から中央部の平坦地に向かって流れ、阿武隈川に合流する釈迦堂川、滑川等があり、その流れに沿って肥沃な農耕地が広がっている。

■鉄道・主な道路など



市内には、昭和48年に東北縦貫自動車道須賀川ICが開設し、平成5年3月には市の東部に福島空港が開港した。また、国道4号、国道118号、国道294号などの幹線道路や、JR東北新幹線、東北本線及び水郡線が通り、県内でも交通の利便性に恵まれた地域となっている。気候は、総合的に一年を通じて比較的温暖であるが、奥羽山脈の影響を強く受ける西部は内陸性気候に属し、気温の較差が大きく1月から3月までにかけては北西からの季節風が強い。

(2) 沿革

本市の歴史は古く、旧石器時代の乙字ヶ滝遺跡、奈良・平安時代を代表する石背郡衙の栄町遺跡、国指定史跡の上人壇廢寺跡などがあり、古代からこの地が、東北地方の要衝として栄えていたことが分かる。

室町時代以降、二階堂氏の城下町として栄えたと言われており、天正 17 年（1589 年）、伊達政宗に攻められ、須賀川城は落城した。毎年、11 月の第 2 土曜日に市中央部にある翠ヶ丘公園で行われる日本三大火祭りのひとつ「松明あかし」は、このときの二階堂家の霊を弔うために行われてきた伝統行事である。

江戸時代、白河領となってからは、奥州街道屈指の宿場町として栄え、独自の町人文化も花開いた。俳諧も盛んであったため、松尾芭蕉は「おくのほそ道」の旅で須賀川に 8 日間滞在している。

明治元年、須賀川は戊辰戦争で大きな打撃を受けたが、須賀川人の気風によって、明治の近代化に尽くし、新たな時代を築いてきた。明治 9 年に本町、中町、北町、道場町が合併し、須賀川村となり、同 22 年の町村制実施により森宿村の一部を合併して須賀川町となった。

昭和 29 年 3 月に須賀川町、浜田村、西袋村、稲田村及び小塩江村の 1 町 4 村が合併して市制を施行し須賀川市となり、同 30 年 3 月に仁井田村、同 42 年 2 月に大東村が合併した。その後、平成 17 年 4 月に長沼町、岩瀬村が合併し、現在の須賀川市となった。

平成 5 年には、本市東部に福島空港が開港した。福島空港は主要都市へ定期便が就航する、福島県の空の玄関として大きな役割を果たしており、本市も臨空都市として大きな変貌を遂げた。また本市は、東北縦貫自動車道須賀川 I C が整備され、J R 東北新幹線へのアクセスが優れているなど、福島県内で最も高速交通条件に恵まれた地域となっている。

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災において、本市は甚大な被害を受け、尊い人命も失った。特に中心市街地においては、市役所、総合福祉センターなどが被災、金融機関、商店、住家なども多く損壊し、平成 26 年 3 月に内閣総理大臣の認定を受けた須賀川市中心市街地活性化基本計画（以下、「第 1 期基本計画」という。）策定時にも、中心市街地の復旧・復興は最重要課題となっていた。

本市は、震災からの復旧・復興、更なる発展に向け全力で取り組んでおり、平成 29 年 5 月には大きな被害を受けた市役所の新しい本庁舎が開庁、同じく大きな被害を受けた総合福祉センター跡地では市民交流センター（愛称：tette（てって））が平成 31 年 1 月に開館した。

(3) 地域経済分析システム (RESAS) でみる須賀川市及び中心市街地周辺

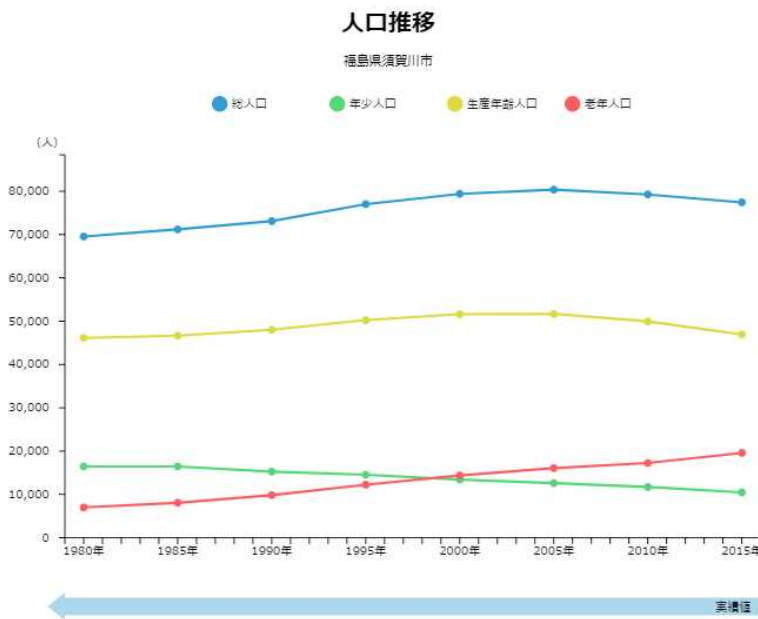
地域経済に係わる様々なビッグデータを収集し、「見える化 (可視化)」するシステムとして国が構築した地域経済分析システム (RESAS) を用いると、本市及び中心市街地周辺の概況は次のように整理できる。

① 人口動態

総人口は 2005 年をピークとして減少。転入は県内近隣都市から、転出は県内都市のほか県外都市も多い。

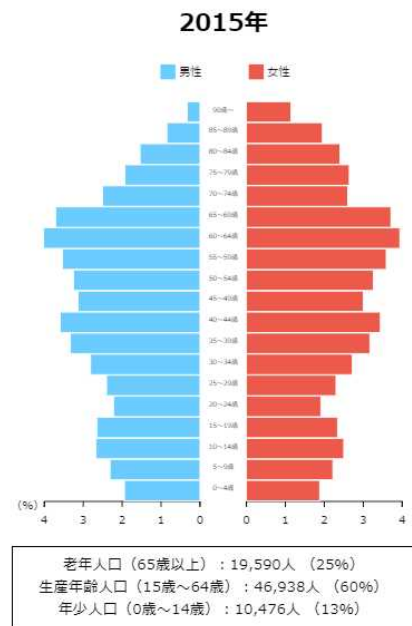
本市の総人口は 2005 年をピークとして減少に転じており、2009 年度の社会増を除き 2006 年度以降は社会減、自然減となっている。内訳をみると 2006 年度から 2012 年度までは転出超過による社会減が自然減を上回っていたが、2013 年度以降は自然減が社会減を上回っている。2017 年の社会増減でみると、本市への転入は県内近隣都市からが多く、上位 10 都市中県外都市は 2 都市のみである。転出では上位 10 都市中県内近隣都市は 6 都市となっている。

■人口推移



【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保険・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

■2015年人口ピラミッド

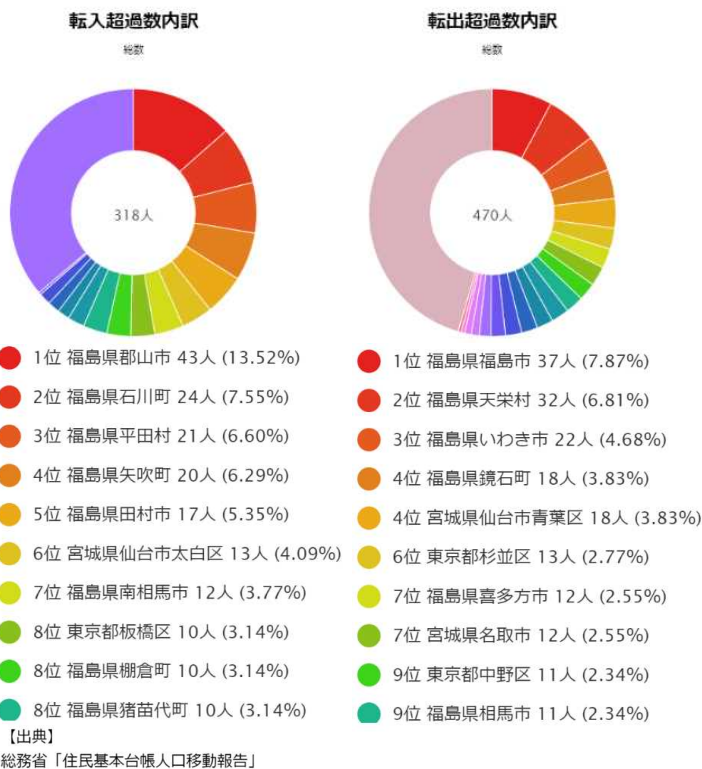


■ 自然増減・社会増減の推移



■ 2017年転入超過数内訳・転出超過数内訳

福島県須賀川市 From-to分析 (定住人口) 2017年



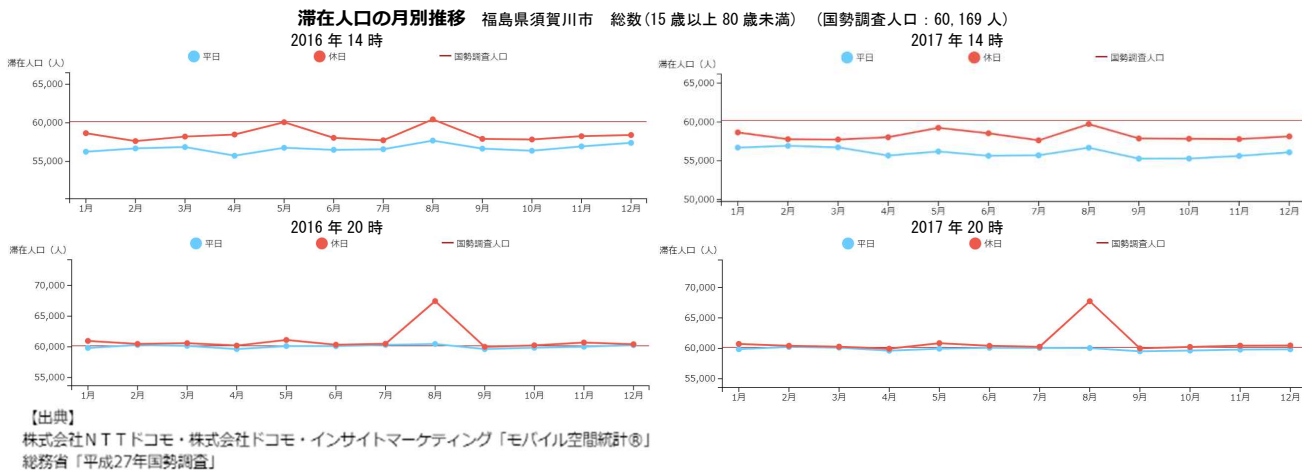
② 滞在人口

14時及び20時の滞在人口は、居住人口である国勢調査人口よりも少ない。

2017年の本市における14時及び20時時点の滞在人口をみると、14時では平日・休日ともに年間を通して国勢調査人口より少なくなっている。特に平日は少なく、多くの市民が市外へ通勤・通学しており、日中は人が少ない状況が見て取れる。一方で20時では基本的に国勢調査人口とほぼ同数となっている。なお、8月の休日が特に多くなっているのは、釈迦堂川花火大会の影響が大きいと思われる。

ちなみに2018年1月の滞在人口をみると市内の人が最も多く、平日の14時・20時は約8割、休日の14時・20時は約9割を占めている。市外では郡山市、鏡石町、矢吹町から移動してきている人が多いが、これらの都市からの移動人口が滞在人口に対する割合をみると、最も多い郡山市からの移動人口でも平日・休日ともに14時は10%未満であり、20時になると2%にも満たない。

■ 滞在人口の月別推移



■ 滞在人口の地域別構成割合

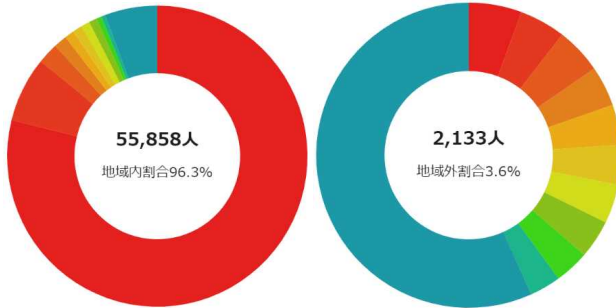
滞在人口の地域別構成割合 市区町村→市区町村 福島県須賀川市 総数(15歳以上80歳未満) (国勢調査人口: 60,169人)

2018年1月平日14時

滞在人口合計: 57,991人 (滞在人口率: 0.96倍)

滞在人口/都道府県内

滞在人口/都道府県外



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 福島県須賀川市 44,045人 (78.8%)
- 2位 福島県郡山市 3,912人 (7.0%)
- 3位 福島県鏡石町 1,244人 (2.2%)
- 4位 福島県矢吹町 802人 (1.4%)
- 5位 福島県石川町 577人 (1.0%)
- 6位 福島県玉川村 565人 (1.0%)
- 7位 福島県天栄村 531人 (0.9%)
- 8位 福島県白河市 476人 (0.8%)
- 9位 福島県福島市 311人 (0.5%)
- 10位 福島県平田村 244人 (0.4%)
- その他 3,151人 (5.6%)

滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

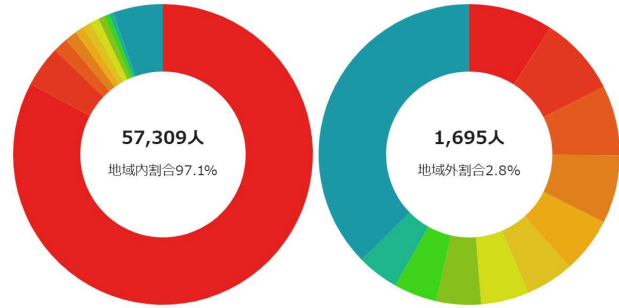
- 1位 東京都世田谷区 120人 (5.6%)
- 2位 宮城県仙台市泉区 104人 (4.8%)
- 3位 宮城県仙台市青葉区 104人 (4.8%)
- 4位 千葉県船橋市 91人 (4.2%)
- 5位 栃木県宇都宮市 91人 (4.2%)
- 6位 宮城県仙台市太白区 90人 (4.2%)
- 7位 東京都練馬区 88人 (4.1%)
- 8位 東京都大田区 87人 (4.0%)
- 9位 東京都豊島区 78人 (3.6%)
- 10位 東京都板橋区 70人 (3.2%)
- その他 1,210人 (56.7%)

2018年1月休日14時

滞在人口合計: 59,004人 (滞在人口率: 0.98倍)

滞在人口/都道府県内

滞在人口/都道府県外



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 福島県須賀川市 47,421人 (82.7%)
- 2位 福島県郡山市 2,563人 (4.4%)
- 3位 福島県鏡石町 915人 (1.5%)
- 4位 福島県矢吹町 732人 (1.2%)
- 5位 福島県玉川村 566人 (0.9%)
- 6位 福島県石川町 533人 (0.9%)
- 7位 福島県白河市 517人 (0.9%)
- 8位 福島県天栄村 389人 (0.6%)
- 9位 福島県福島市 316人 (0.5%)
- 10位 福島県平田村 256人 (0.4%)
- その他 3,101人 (5.4%)

滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

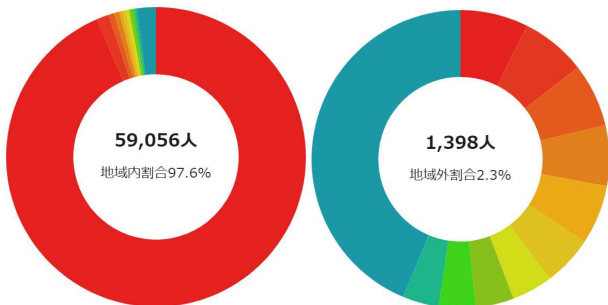
- 1位 千葉県船橋市 153人 (9.0%)
- 2位 東京都世田谷区 145人 (8.5%)
- 3位 宮城県仙台市青葉区 127人 (7.4%)
- 4位 東京都大田区 125人 (7.3%)
- 5位 東京都板橋区 101人 (5.9%)
- 6位 宮城県仙台市泉区 88人 (5.1%)
- 7位 宮城県仙台市太白区 87人 (5.1%)
- 8位 栃木県宇都宮市 81人 (4.7%)
- 9位 東京都練馬区 79人 (4.6%)
- 10位 東京都杉並区 76人 (4.4%)
- その他 633人 (37.3%)

2018年1月平日20時

滞在人口合計: 60,454人 (滞在人口率: 1.00倍)

滞在人口/都道府県内

滞在人口/都道府県外



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 福島県須賀川市 55,229人 (93.5%)
- 2位 福島県郡山市 784人 (1.3%)
- 3位 福島県鏡石町 380人 (0.6%)
- 4位 福島県矢吹町 333人 (0.5%)
- 5位 福島県石川町 216人 (0.3%)
- 6位 福島県天栄村 211人 (0.3%)
- 7位 福島県玉川村 200人 (0.3%)
- 8位 福島県白河市 187人 (0.3%)
- 9位 福島県福島市 165人 (0.2%)
- 10位 福島県いわき市 144人 (0.2%)
- その他 1,207人 (2.0%)

滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

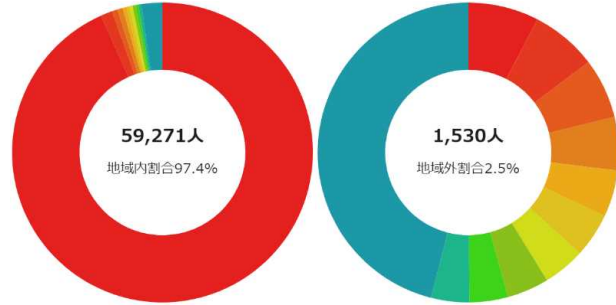
- 1位 千葉県船橋市 103人 (7.3%)
- 2位 宮城県仙台市泉区 99人 (7.0%)
- 3位 東京都世田谷区 96人 (6.8%)
- 4位 宮城県仙台市青葉区 92人 (6.5%)
- 5位 東京都大田区 90人 (6.4%)
- 6位 東京都練馬区 76人 (5.4%)
- 7位 東京都中野区 62人 (4.4%)
- 8位 東京都板橋区 58人 (4.1%)
- 9位 宮城県仙台市太白区 56人 (4.0%)
- 10位 東京都江戸川区 55人 (3.9%)
- その他 611人 (43.7%)

2018年1月休日20時

滞在人口合計: 60,801人 (滞在人口率: 1.01倍)

滞在人口/都道府県内

滞在人口/都道府県外



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 福島県須賀川市 55,287人 (93.2%)
- 2位 福島県郡山市 753人 (1.2%)
- 3位 福島県矢吹町 363人 (0.6%)
- 4位 福島県鏡石町 343人 (0.5%)
- 5位 福島県石川町 235人 (0.3%)
- 6位 福島県白河市 200人 (0.3%)
- 7位 福島県玉川村 196人 (0.3%)
- 8位 福島県福島市 192人 (0.3%)
- 9位 福島県天栄村 185人 (0.3%)
- 10位 福島県いわき市 182人 (0.3%)
- その他 1,335人 (2.2%)

滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

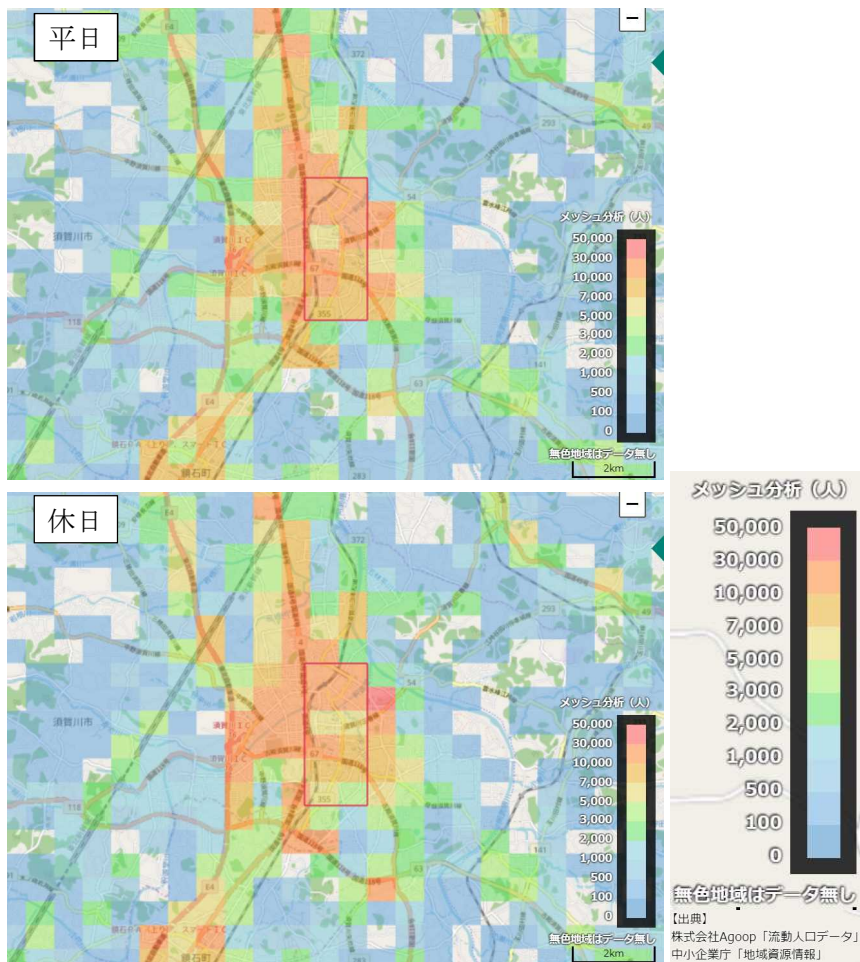
- 1位 東京都大田区 116人 (7.5%)
- 2位 東京都世田谷区 109人 (7.1%)
- 3位 宮城県仙台市青葉区 99人 (6.4%)
- 4位 千葉県船橋市 88人 (5.7%)
- 5位 東京都豊島区 77人 (5.0%)
- 6位 東京都江戸川区 73人 (4.7%)
- 7位 東京都中野区 69人 (4.5%)
- 8位 栃木県宇都宮市 69人 (4.5%)
- 9位 神奈川県川崎市中原区 63人 (4.1%)
- 10位 東京都杉並区 63人 (4.1%)
- その他 704人 (46.0%)

【出典】

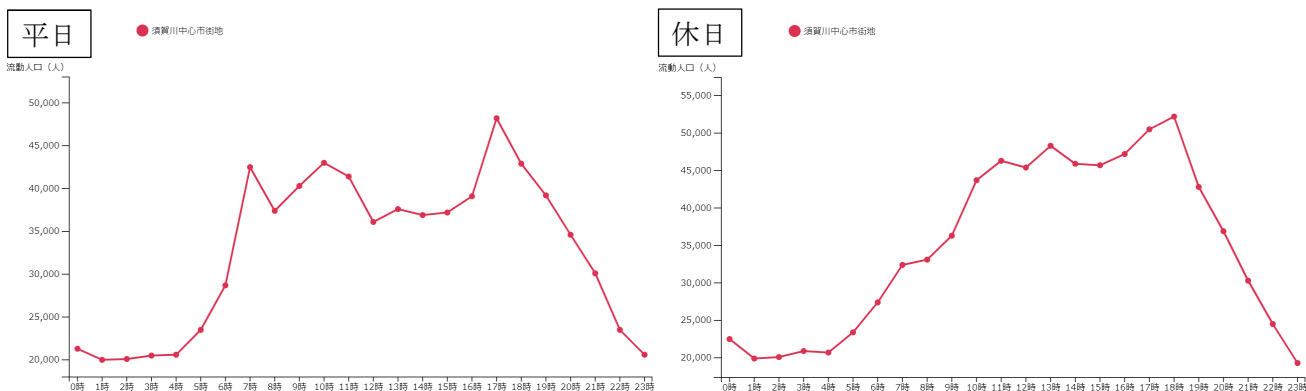
株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」
総務省「平成27年国勢調査」

本市の中で中心市街地周辺（下図、四角で囲んだ地域）は平日・休日ともに流入人口が多い地区となっている。時間別にみると平日のピークは17時、休日のピークは18時であり、ともにこの前後の夕方の時間帯に多くなっている。

■2017年6月流入人口メッシュ



■2017年6月中心市街地周辺の流動人口マップ（時間帯別流入人口）



【出典】
株式会社Ageoop「流動人口データ」

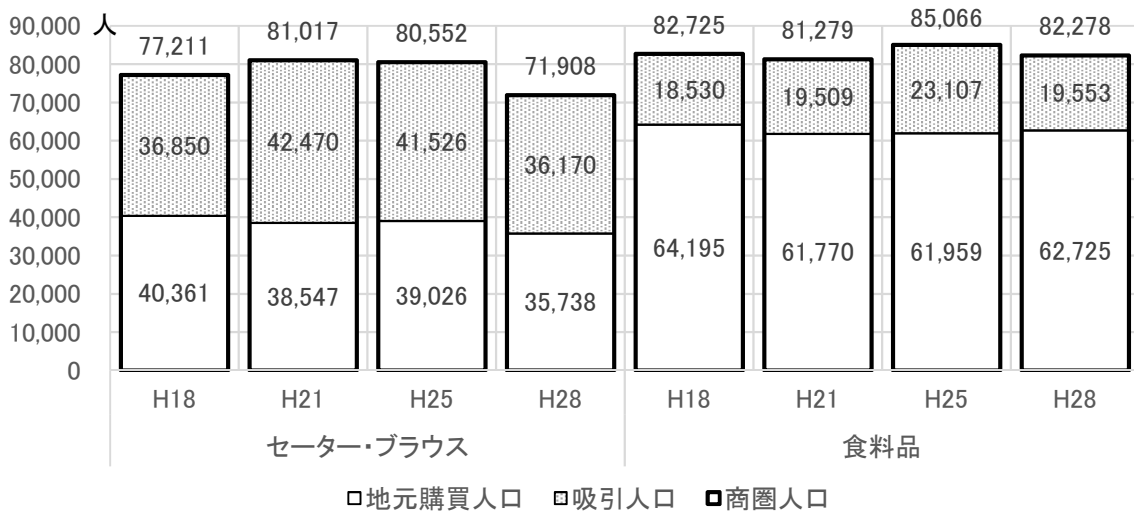
(4) 消費購買動向から見た須賀川市の広域的位置付け

福島県の消費購買動向調査でみると、合併し現在の須賀川市となった後の平成 18 年度調査から最新の平成 28 年度調査まで、本市は「地域の中核商業」を担い地元購買率を一定維持しながら周りの町村から買物客を集めている「地域型商圏都市」に位置付けられている。

本市は、最寄性の高い「日用品」「食料品」「医薬品・化粧品」などの品目については、周辺都市からの流入が多く、「食料品」でみると地元購買人口は減少しているものの吸引人口が増加しているため、平成 28 年の商圏人口 82,278 人は、およそ 10 年前の平成 18 年度とほぼ同数を維持している。

買回性の高い「背広・スーツ」「靴・バッグ」「家電製品」「セーター・ブラウス」などの品目についても周辺都市から本市への流入はみられるが、郡山市への流出の方が多いため、郡山市へも多く流出しているため、「セーター・ブラウス」でみると地元購買人口、吸引人口ともに減少しており、平成 28 年度の商圏人口は 71,908 人で、平成 18 年度よりも約 5,000 人少なくなっている。

■須賀川市の商圏人口



資料:「消費購買動向調査」福島県商工労働部

[2] 中心市街地の現況

(1) 概況

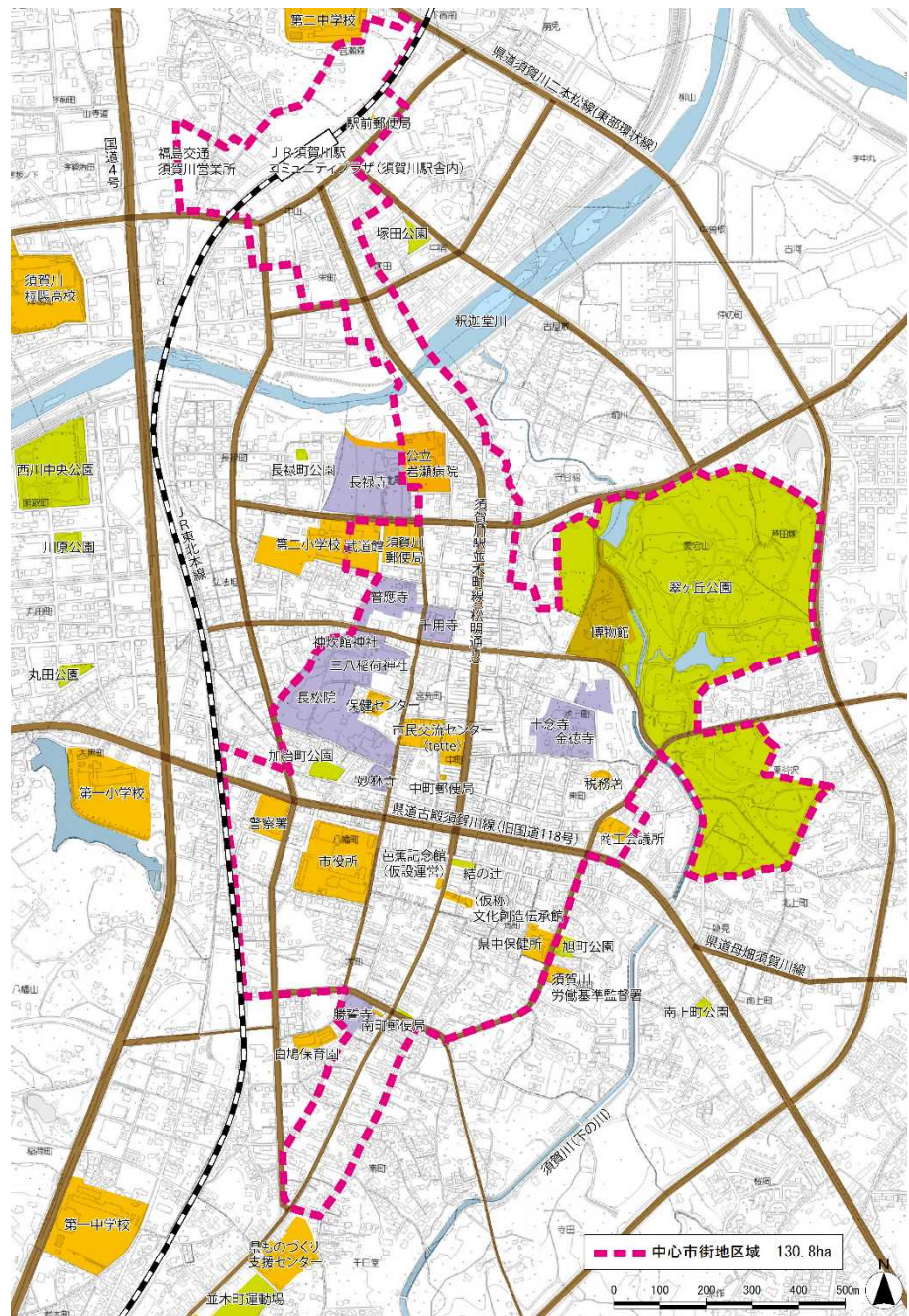
- 本計画における中心市街地は、JR 須賀川駅から市役所周辺を含めた面積 130.8ha の区域。
- 室町時代に須賀川城の城下町として始まり、宿場町・商人の町などとして栄えてきたが、市街地の拡大等により中心としての存在感が低下。さらに東日本大震災により甚大な被害を受けたが、現在も震災からの復旧・復興、更なる発展に向け、様々な取り組みが進行中。

① 位置・地勢

本計画における中心市街地の区域は、須賀川市のほぼ中央に位置し、北は本市への玄関口である JR 須賀川駅周辺から、南は福島県ものづくり支援センター北の交差点までの須賀川駅並木町線沿道を中心とした面積 130.8ha の区域とする。

JR 須賀川駅周辺を除く中心市街地の大部分は馬の背と言われる丘陵地に広がっており、ほぼ平坦であるが、北部を流れる釈迦堂川以北の JR 須賀川駅周辺や東部を流れる須賀川(下の川) 沿いなどとの間には大きな標高差があり、中心市街地周辺には風情のある坂道がある。

■ 中心市街地周辺の位置



② 成り立ち

本市の中心市街地は、室町時代に二階堂氏が須賀川城を築いたことに始まると言われている。古代から中世にかけては、現在の中心市街地の東部を東山道が通っていたが、戦国時代末期の蒲生氏支配期に須賀川城の跡地へ市内中宿、下宿などにあった町屋などを移したことにより、宿場町としての機能を有し始める。その後、江戸時代の始めに奥州街道の整備が行われた際、問屋や本陣などが置かれたことにより、須賀川宿として更に栄えた。

江戸時代には、六斎市が3と8の日（本町が3日・8日、中町が13日・23日、北町が18日・28日）に開かれ、近郊の産品が出荷されるだけでなく、遠隔地の産品も取り引きされた。特に米穀については、米相場も形成されるようになり、その相場が周辺地域の基準にさえなっていた。また、このころには庄屋等町の指導者層が参席する「須賀川町会所」という自治組織が設けられ、武士ではなく町人の手によって、町政、財政の評議などが行われていた。

明治時代以降は、戊辰戦争による被災や、町役場を始め町の中央部を悉く焼き尽くした明治24年の大火などの災害に見舞われるも、そのたび復興を果たしてきた。

中心市街地内には、多くの店舗等の商業集積が進んだほか、市役所、図書館、体育館、中央公民館、総合福祉センター、第二小学校などの市の施設をはじめ、税務署、警察署、郵便局、商工会議所などの公共公益施設も多く立地してきた。

しかしながら、市街地の拡大化や幹線道路沿道などへの大型小売店の出店などにより、周辺地域における商業の中心としての位置付けが弱まるとともに、市内においても街の中心としての存在感が低下している。

さらに、平成23年3月11日の東日本大震災では、市役所、総合福祉センターの被災をはじめ、金融機関、商店、住家などの損壊など、中心市街地でも甚大な被害を受けた。その復旧・復興に関しては、「須賀川市震災復興計画」（平成23年12月策定）や「復興まちづくり事業計画」（平成25年3月策定）の中で「市街地中心部の再生・活性化」を重点プロジェクトに位置付け、積極的に取り組んできている。

第1期基本計画策定後の平成27年度には、東日本大震災の被災者の移転先となる災害公営住宅3団地77戸が整備された。また同年度に創設した須賀川市地域優良賃貸住宅整備事業により計4棟22戸の民間賃貸住宅が平成28年度に整備されるなど、区域内の居住人口は増加している。

平成29年度には3月にまちづくり会社である株式会社こぷろ須賀川によりコインパーキングが2か所整備され、5月には東日本大震災により大きな被害を受けた市役所の新しい本庁舎が開庁している。来庁を目的とした来街者の増加に加え、市庁舎における約600人に及ぶ就業者の存在が今後の中心市街地の活性化に大きく寄与すると考えられる。

このほか、故円谷英二氏が本市出身であることから取り組んでいるウルトラマンを活用したまちづくりの一環として中心市街地のメイン道路である須賀川駅並木町線沿道などにおけるウルトラマンのモニュメントの設置なども行われている。さらに、総合福祉センターやあきない広場の跡地では市民交流センターが平成31年1月に開館した。

民間による取り組みも活発化しており、地域住民有志による中心市街地での自主的なイベント開催などが平成27年度から継続的に行われ、空き店舗対策事業による新規出店が進むなど、更なる来街者の増加や賑わいの創出が期待される。

(2) 人口・世帯

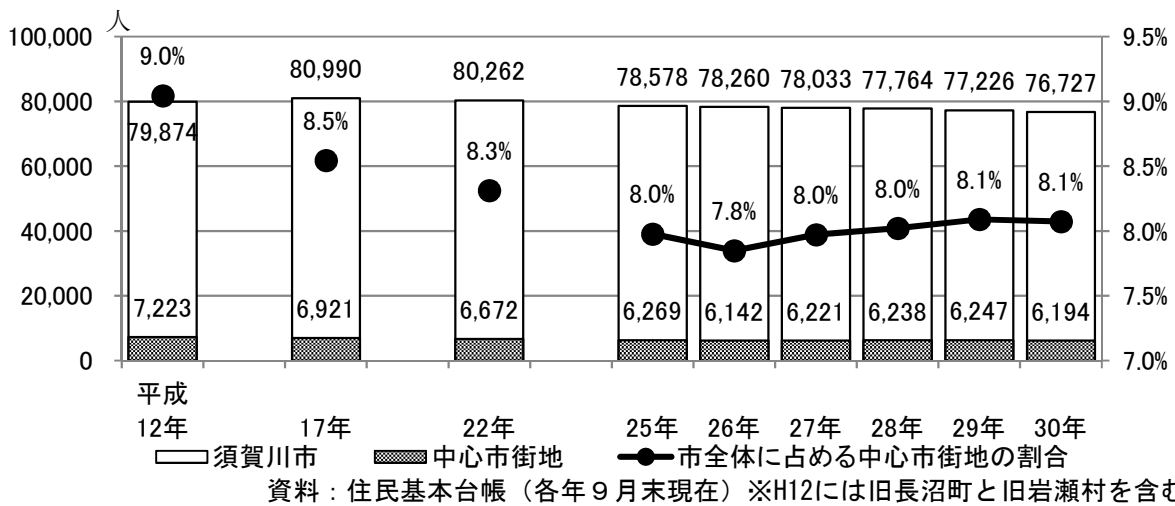
・ 中心市街地の人口は近年微増傾向。市全体でみると、人口減少とともに中心市街地以外の人口集中地区への人口集積が進んでおり、中心市街地の人口が占める割合は、市全体に対しては増加傾向にあるものの、人口集中地区に対しては減少。

※本項では経緯をみるため、中心市街地の人口を第1期基本計画の区域内人口として検証する。

① 人口・世帯数の推移

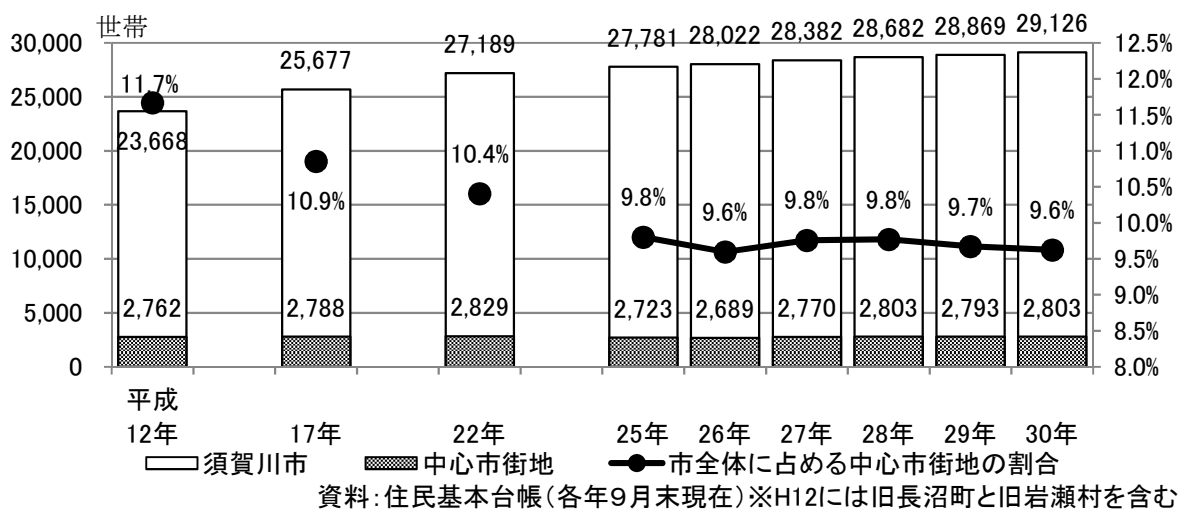
少子高齢化などの影響により、現在も市全体の人口は減少している。中心市街地の人口も減少が続き平成26年9月末には6,142人となっていたが、それ以降増加に転じ平成29年9月末には6,247人にまで回復した。平成30年9月末には若干減少し6,194人となっているが、市全体に占める割合は近年の増加傾向を維持している。

■人口の推移



平成30年9月末の中心市街地の世帯数は2,803世帯となっている。市全体の世帯数は核家族化などにより現在も増加しているが、中心市街地の世帯数は、近年は約2,800世帯、市全体に占める割合は約10%弱で推移している。

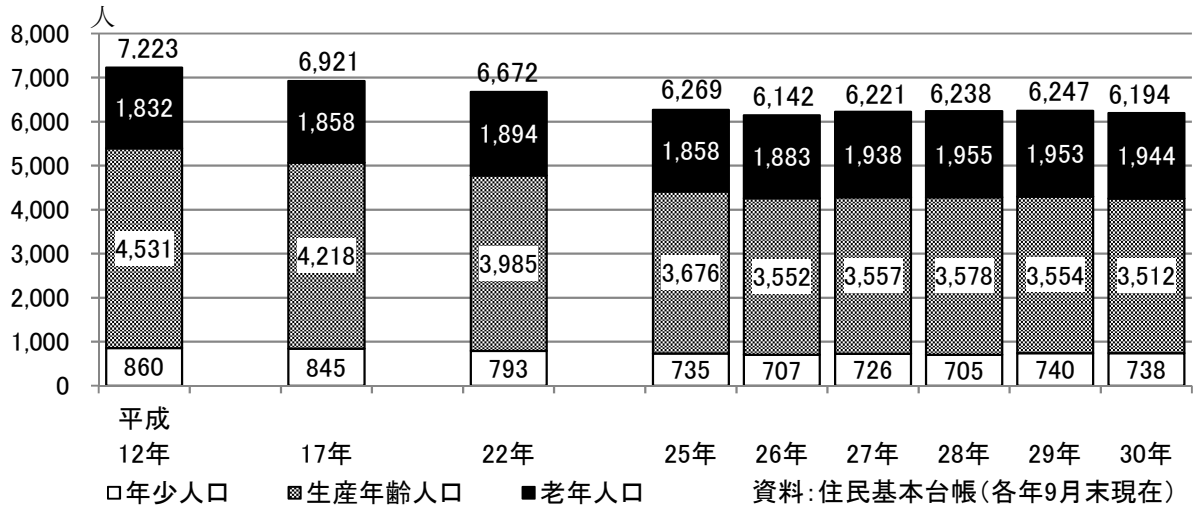
■世帯数の推移



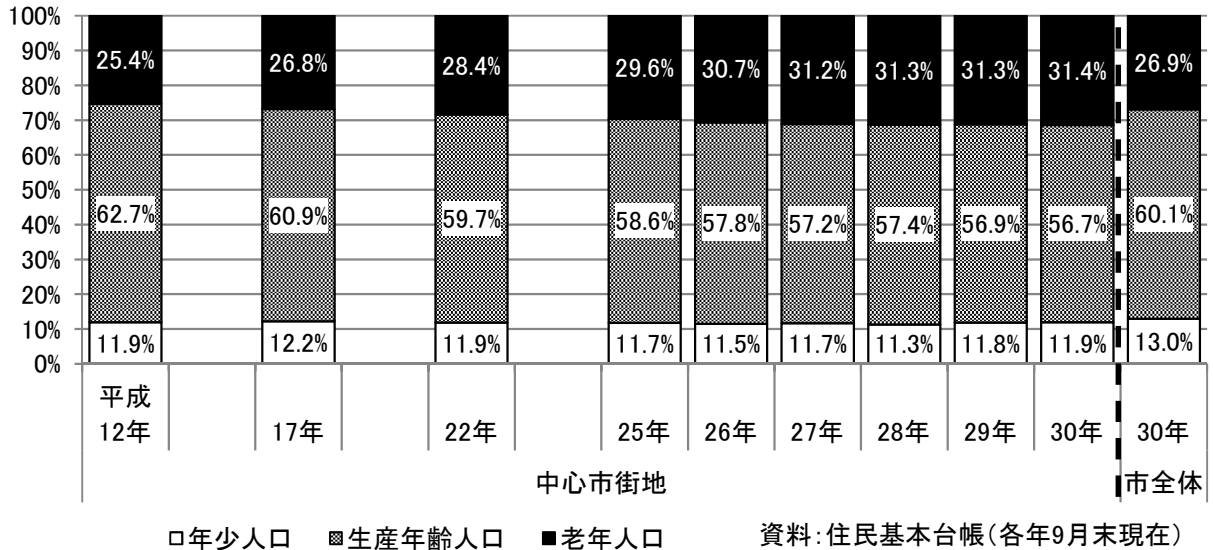
② 年齢別人口

平成30年9月末現在、中心市街地の年少人口（14歳以下）は738人、生産年齢人口（15～64歳）は3,512人、老年人口（65歳以上）は1,944人で、市全体と比較すると、年少人口割合、生産年齢人口割合は低く、老年人口割合は高くなっている。

■年齢3区分別人口の推移（中心市街地）



■年齢3区分別人口割合の推移（中心市街地）



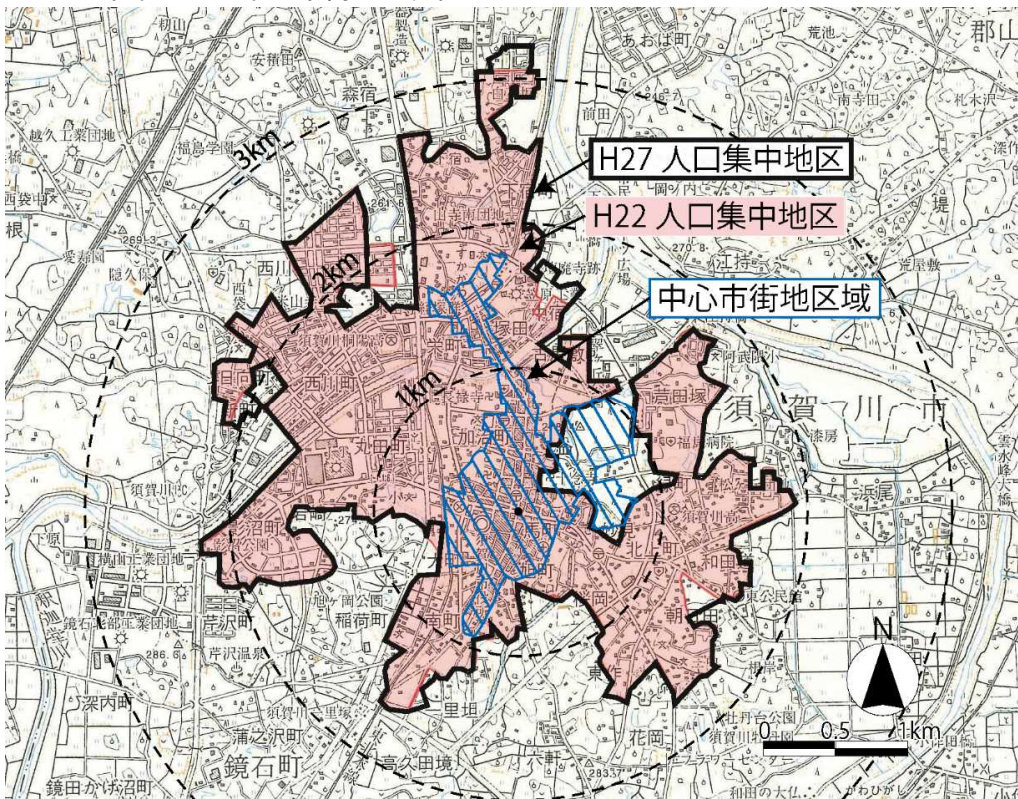
③ 人口集中地区

本市の人口集中地区※は拡大し続けており、平成27年時点で7.64km²の区域が指定されている。長期的にみると人口は増加傾向にあるが、平成27年の31,131人は平成22年よりも若干少なくなっている。人口密度は低下しており、平成27年には4,074.7人/km²となっている。

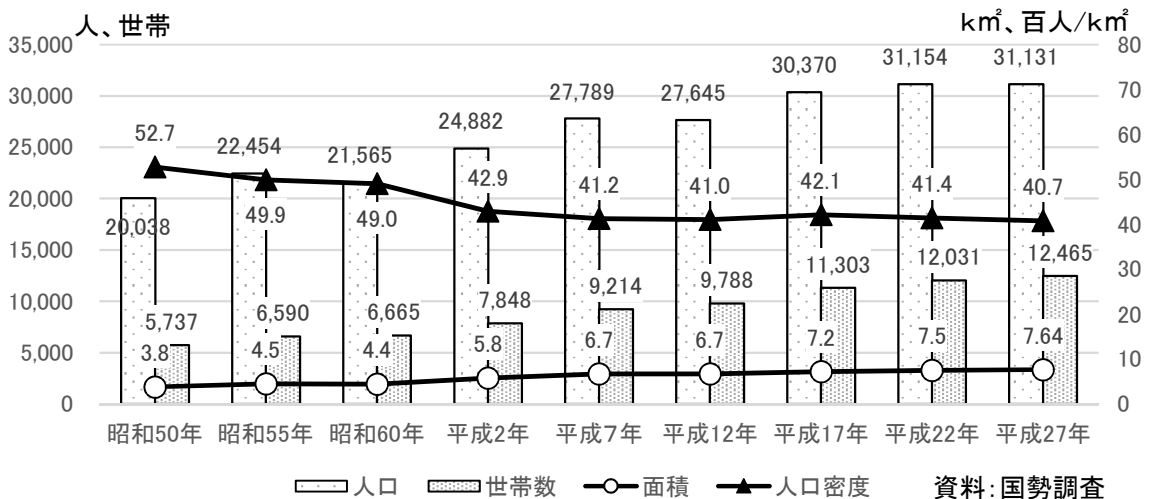
中心市街地は、翠ヶ丘公園以外のほぼ全域が人口集中地区の中央部に含まれている。

※人口集中地区：市区町村の境域内において、人口密度の高い基本単位区（原則として人口密度が1km²当たり4,000人以上（1ha当たり40人以上））が隣接し、かつ、その隣接した基本単位区内の人口が5,000人以上となる地域

■人口集中地区と中心市街地の位置

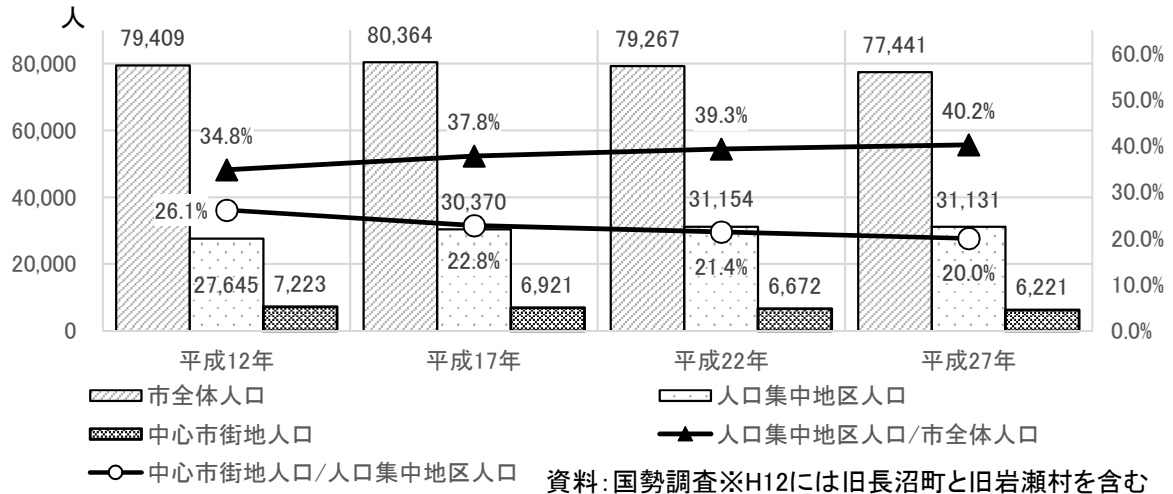


■人口集中地区

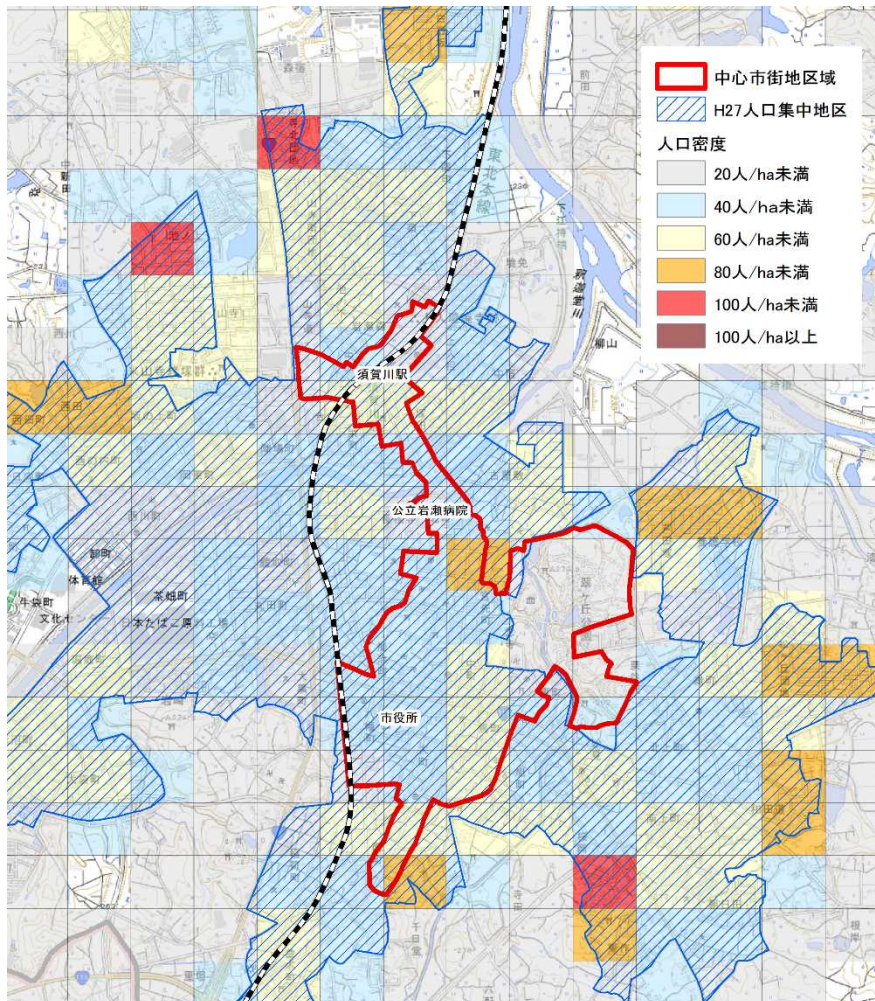


市全体人口に対する人口集中地区人口の割合は増加傾向にある一方で、人口集中地区人口に対する中心市街地人口の割合は減少しており、本市では中心市街地を除く人口集中地区への人口の集中が進んでいるといえる。

■市全体・人口集中地区・中心市街地の人口の推移



■中心市街地周辺の人口密度（250mメッシュ）



資料：H27 国勢調査 ※ベース図：淡色地図（地理院タイル）

(3) 全産業の事業所数・従業者数

- 中心市街地内では、事業所は「卸売業、小売業」、従業者は「医療・福祉」が最も多い。
- 中心市街地の「卸売業、小売業」が市全体の中で占める割合は、全産業と比較して事業所数は高いものの従業者は低いことから、規模が小さい事業所が多いと考えられる。
- 「卸売業、小売業」以外では、「生活関連サービス業、娯楽業」「医療、福祉」「サービス業」「公務」「金融業、保険業」の中心市街地への集積がみられる。

中心市街地（本項においては、事業所の立地状況から旭町、池上町、馬町、大町、上北町、加治町、北町、栄町、諏訪町、塚田、中山、中町、八幡町、東町、宮先町、南町、本町の合計としている）の中だけでみると、事業所数では「卸売業、小売業」、従業者数では「医療、福祉」が最も多く、市全体や中心市街地外と比較すると、この2業種のほか「生活関連サービス業、娯楽業」「サービス業」の事業所及び従業者が各総数の中で占める割合が高くなっている。

このうち、「生活関連サービス業、娯楽業」「医療、福祉」「サービス業」では事業所数、従業者数ともに、市全体の中で占める割合が高くなっており、中心市街地に集積している。中心市街地の「卸売業、小売業」が市全体の中で占める割合をみると、全産業（総数）に比べ事業所数は高いものの、従業者数は低くなっていることから、中心市街地に事業所は集積しているものの従業者数が少ない（規模が小さい）事業所が多いと考えられる。

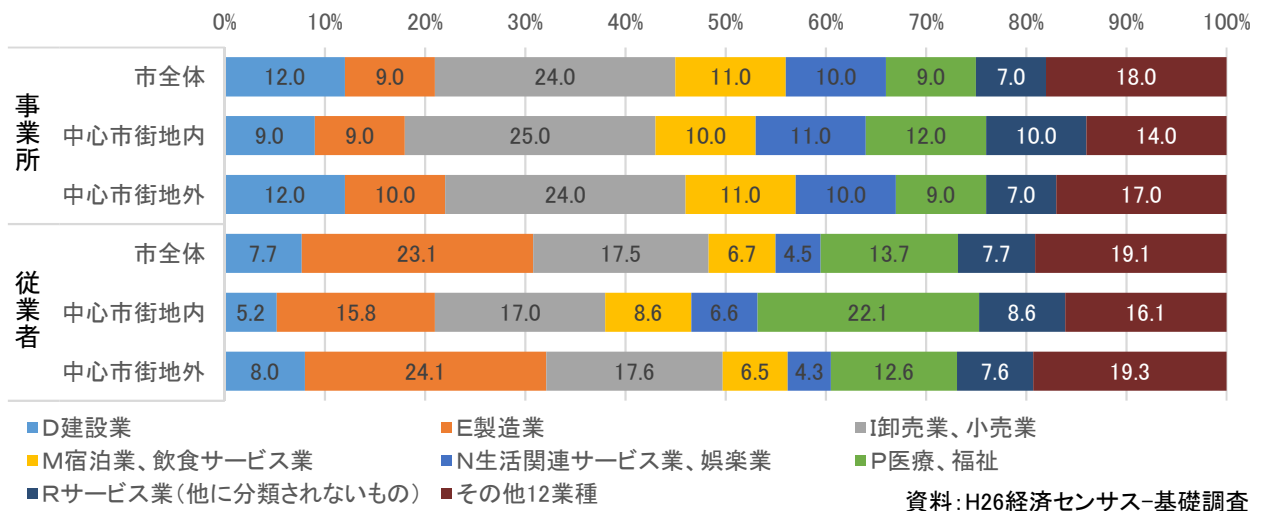
また、「公務」や「金融業、保険業」は事業所数及び従業者数の市全体の中で占める割合が高く、中心市街地への集積がみられる。

■業種別事業所数・従業者数

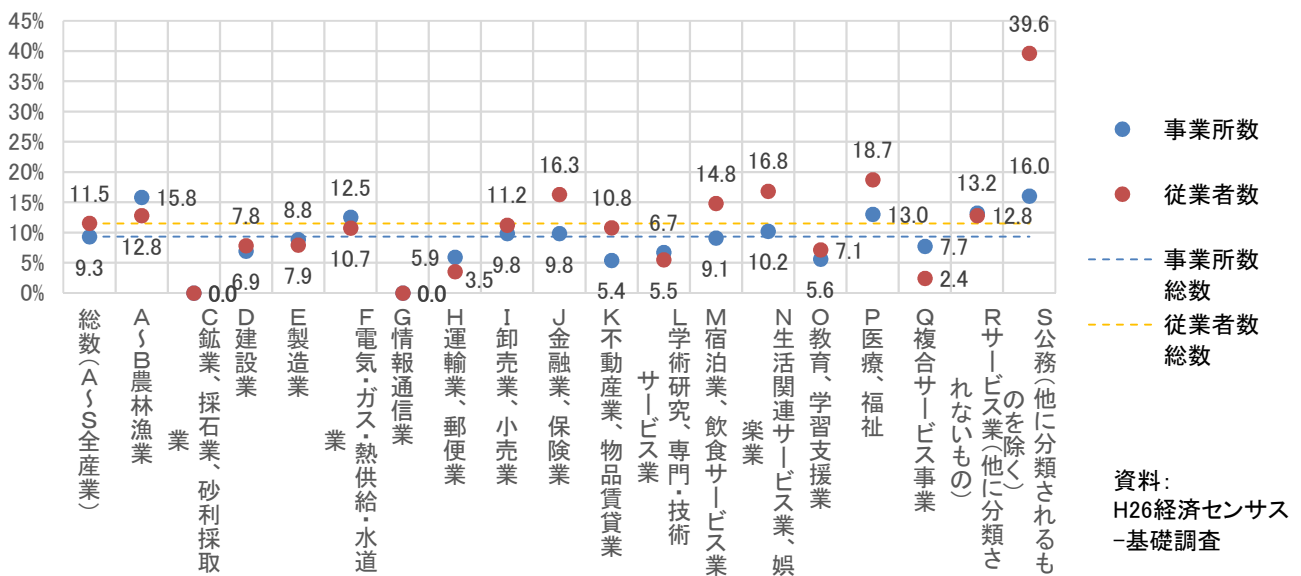
		総数(A～S全産業)	A～B農林漁業	C鉱業、採石業、砂利採取業	D建設業	E製造業	F電気・ガス・熱供給・水道業	G情報通信業	H運輸業、郵便業	I卸売業、小売業	J金融業、保険業
事業所数	市全体	3,349	19	3	389	318	8	17	101	815	51
	中心市街地	313	3	0	27	28	1	0	6	80	5
	中心市街地外	3,036	16	3	362	290	7	17	95	735	46
従業者数(人)	市全体	32,610	187	14	2,505	7,533	205	136	1,845	5,705	514
	中心市街地	3,760	24	0	196	593	22	0	65	639	84
	中心市街地外	28,850	163	14	2,309	6,940	183	136	1,780	5,066	430
			K不動産業、物品賃貸業	L学術研究、専門・技術サービス業	M宿泊業、飲食サービス業	N生活関連サービス業、娯楽業	O教育、学習支援業	P医療、福祉	Q複合サービス事業	Rサービス業(他に分類されないもの)	S公務(他に分類されるものを除く)
事業所数	市全体	92	90	353	323	178	299	26	242	25	
	中心市街地	5	6	32	33	10	39	2	32	4	
	中心市街地外	87	84	321	290	168	260	24	210	21	
従業者数(人)	市全体	416	362	2,188	1,479	1,513	4,459	456	2,517	576	
	中心市街地	45	20	324	248	107	832	11	322	228	
	中心市街地外	371	342	1,864	1,231	1,406	3,627	445	2,195	348	

資料：H26経済センサス-基礎調査

■事業所数・従業者数の業種別割合



■中心市街地の事業所数・従業者数が市全体の中で占める割合



(4) 小売業

- ・市全体の事業所数・従業者数・年間商品販売額・売場面積の全てが減少しているなか、中心市街地は市全体以上の割合で減少している。
- ・中心市街地は、周辺と比較して事業所数は多いが、売場面積や年間販売額は周辺の大型小売店舗が立地する地区などの方が多。

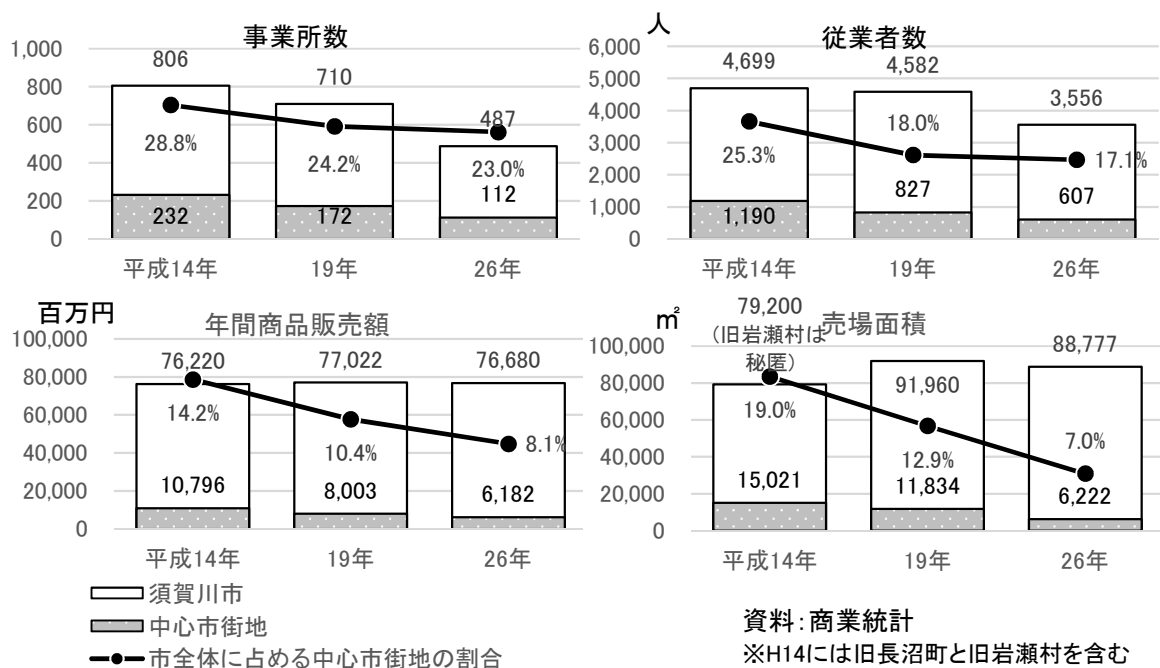
① 中心市街地（主な商業集積地）の小売業

商業統計で設定された中心市街地内の主な商業集積地※の合計（以下、中心市街地という。）の小売業をみると、事業所数・従業者は、平成14年から26年にかけて減少している。市全体でも減少しているが、その割合は中心市街地の方が高く、その結果、市全体に占める中心市街地の割合が下降している。

中心市街地の小売業は年間商品販売額と売場面積も、平成14年から26年にかけて減少している。しかし、市全体でみると、年間商品販売額、売場面積ともに平成14年よりも平成26年の方が増加しているため、市全体に占める中心市街地の割合は下降している。

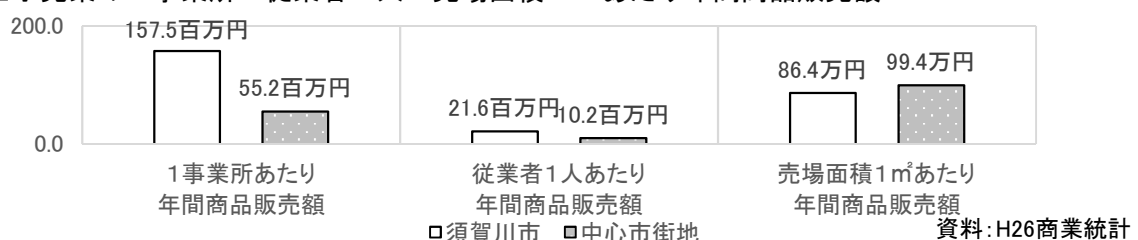
※平成26年調査では「駅前地区」「北町商店街」「上北町、宮先町、弘法坦商店街」「中町、東町商店街」「本町、馬町、旭町商店街」「大町商店街」「南町商店街」「加治町、八幡町商店街」

■小売業の事業所数・従業者数・年間商品販売額・売場面積の推移



年間商品販売額でみると、市全体と比較して中心市街地は事業所、従業者あたりの額は少ないが、売場面積あたりの額では多くなっている。

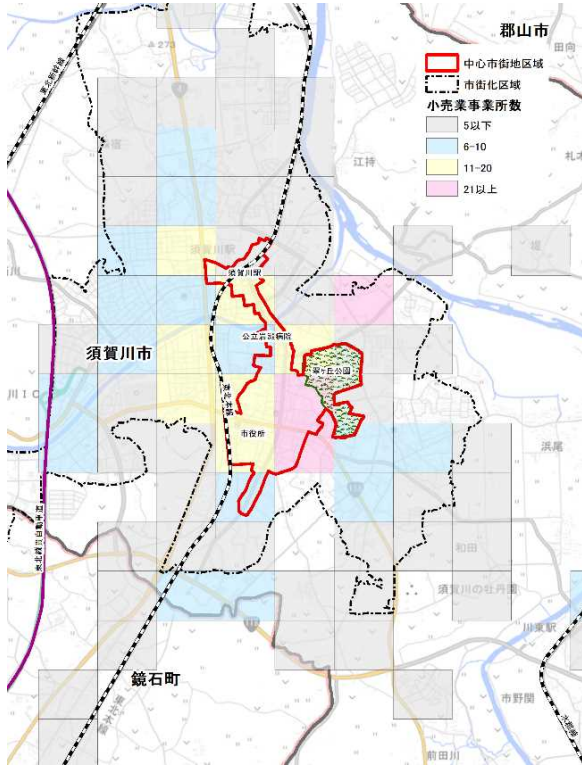
■小売業の1事業所・従業者1人・売場面積1㎡あたり年間商品販売額



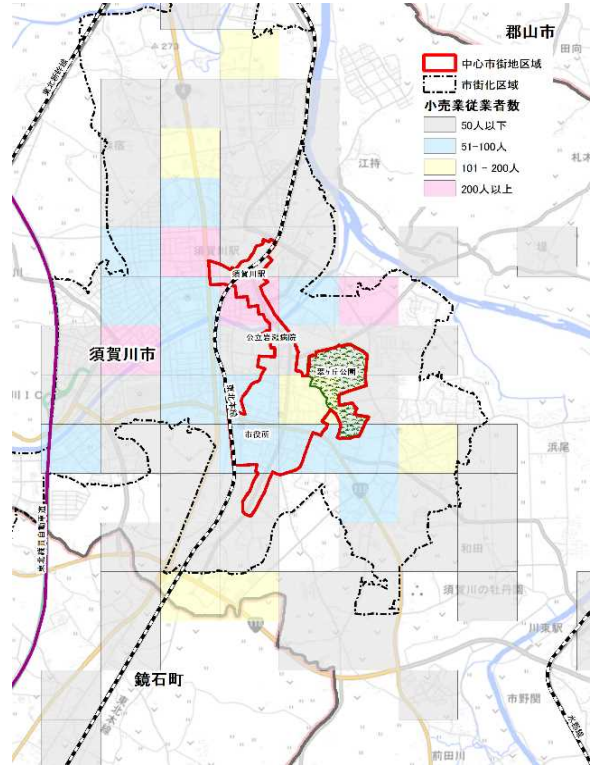
周辺と比較すると、中心市街地内の特に中心部に事業所は多いものの、年間販売額や売場面積は周辺の大型小売店が立地する区域のほうが大きくなっている。

■中心市街地周辺の小売業の事業所数・従業者数・年間商品販売額・売場面積（500mメッシュ）

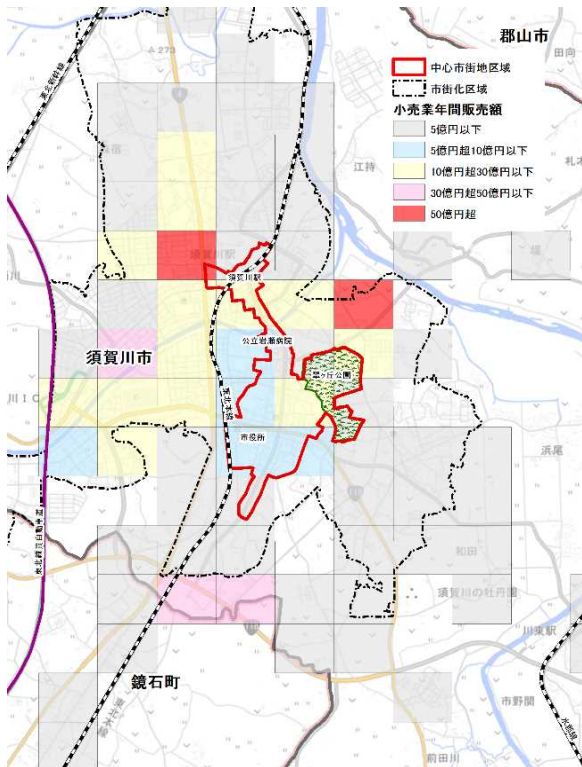
事業所数



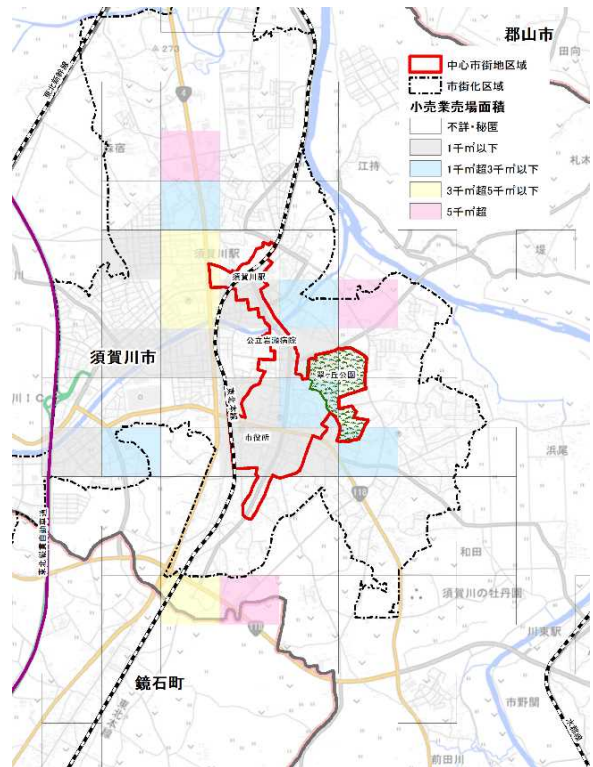
従業者数



年間販売額



売場面積



資料：H26 商業統計 ※ベース図：淡色地図（地理院タイル）

② 大型小売店など

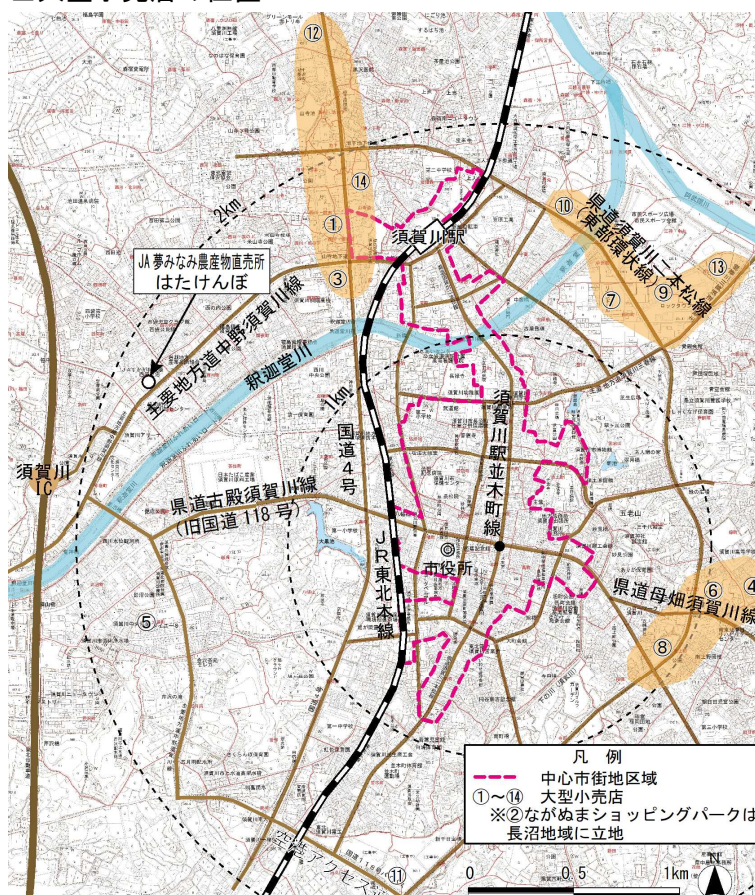
現在、中心市街地内には、店舗面積が1,000㎡を超える大型小売店は立地していない。市民交流センター用地に立地していた赤トリキ中町店（平成12年1月10日に閉店した須賀川店が、店名を変えて平成16年3月9日に営業再開）が閉店した平成17年5月31日以降、大型小売店ゼロという状況が続いている。

市内の大型小売店14店中、赤トリキ中町店の閉店以降に出店した全6店を含む13店が中心市街地周辺の主要道路沿道などに立地している。

また、平成15年には中心市街地周辺の須賀川IC近くにJAすかがわ岩瀬（現在はJA夢みなみ）の農産物直売所はたけんぼが開業しており、近年でも年間約60万人が訪れている。

平成26年の年間商品販売額を平成14年と比較すると、市全体ではほぼ同額を維持しているのに対して中心市街地では約4割減となっている（P16参照）。これには、東日本大震災による被害だけではなく、このような周辺への大型小売店などの出店の影響も大きいと考えられる。

■大型小売店の位置



■大型小売店の概要

店舗名	業態	主要取扱販売品	店舗面積	開設年月日
①ヨークベニマル須賀川西店	スーパー	食料品、衣料品、家庭用品	4,552㎡	H2(1990).7
②ながぬまショッピングパーク	スーパー	食料品、衣料品、家庭用品	1,862㎡	H7(1995).11
③カワチ薬品須賀川店	専門店	家庭用品、食料品、医薬品・化粧品	2,371㎡	H8(1996).2
④リオン・ドール須賀川南店	食品スーパー	食料品、家庭用品	1,404㎡	H8(1996).6
⑤ダイユーエイト須賀川西店	ホームセンター	DIY関連用品、家庭用品	3,860㎡	H11(1999).4
⑥須賀川東部ショッピングセンター (スーパーマーケットいちい須賀川東店)	食品スーパー	食料品、家庭用品	2,272㎡	H12(2000).11
⑦リオン・ドール須賀川東店	スーパー	食料品、家庭用品、書籍・雑誌	4,679㎡	H15(2003).9
⑧カワチ薬品須賀川東店	専門店	医薬品・化粧品、家庭用品、食料品	2,486㎡	H16(2004).12
⑨イオンタウン須賀川	ショッピングセンター	食料品、家庭用品、衣料品、身の回り品	13,480㎡	H17(2005).10
⑩ケースデンキ須賀川パワフル館	専門店	家電、情報通信機器	2,607㎡	H19(2007).3
⑪メガステージ須賀川 (ヨークベニマル・スーパースポーツゼビオ・ダイユーエイト・ヤマダ電機)	専門店	食料品、スポーツ用品、DIY関連用品、家電	21,001㎡	H19(2007).12
⑫フレスポ須賀川	ショッピングセンター	食料品、日用品等	8,501㎡	H25(2013).9
⑬サンデー須賀川店	ホームセンター	建築資材、家庭用雑貨、日用雑貨	4,295㎡	H25(2013).10
⑭(仮称)ドン・キホーテ須賀川山寺道開発プロジェクト	ディスカウントストア	日用品雑貨、家具、寝具、インテリア用品、衣料品、化粧品、インテリア雑貨、バラエティグッズ、シューズ、家電製品など	2,237㎡	H30(2018).11
			計	73,370㎡

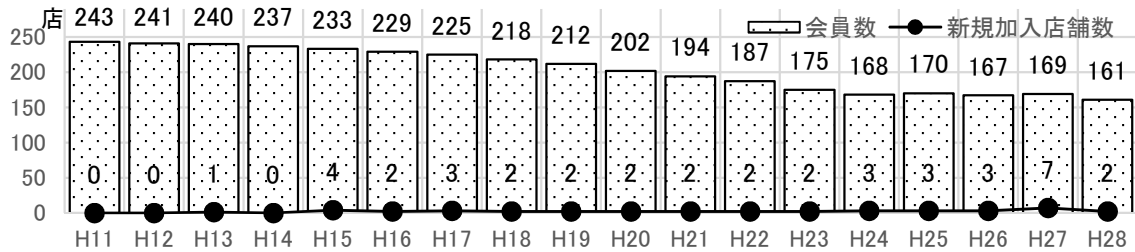
資料：市商工労政課

③ 中心市街地内の商店会等

中心市街地には、主に須賀川駅並木町線沿道を中心として、9の商店会等があるが、その会員数は減少傾向にある。

平成11年には243店であったが、平成21年には200店を下回り、平成28年には161店となっている。

■商店会等会員数の推移



■商店会等位置図



④ 空き店舗

平成26年度調査では、空き店舗は店舗併用型住宅33件、独立型店舗18件、テナント型店舗12件が確認できた。

■町別空き店舗数

	町別																		合計					
	旭町	岩瀬森	池上町	馬町	大町	上北町	加治町	北町	栄町	上人坦	諏訪町	千日堂	塚田	中山	中町	八幡町	東町	宮先町		南町	守谷館	本町	山寺道	台
店舗併用住宅	0	0	4	3	3	2	2	2	2	0	0	0	3	2	1	3	1	1	3	0	1	0	0	33
独立型店舗	0	0	1	0	3	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	4	2	1	0	0	1	0	0	18
テナント型店舗	1	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	4	0	0	12

資料：須賀川市中心市街地定住化促進土地利用等調査(H26)

(5) 歩行者通行量

- 歩行者通行量は平日・休日ともに近年増加しており、全 15 調査地点の合計でみると平成 30 年度の通行量は平成 25 年度の約 1.4～1.5 倍。中央部、特に市庁舎の周辺で大きく増加している。
- ウルトラマンのモニュメント設置などの取り組み、特に市庁舎の開庁が大きな要因となっていると考えられ、平成 31 年 1 月に開館した市民交流センターの利用者増に伴う更なる増加が想定される。

① 平日歩行者通行量

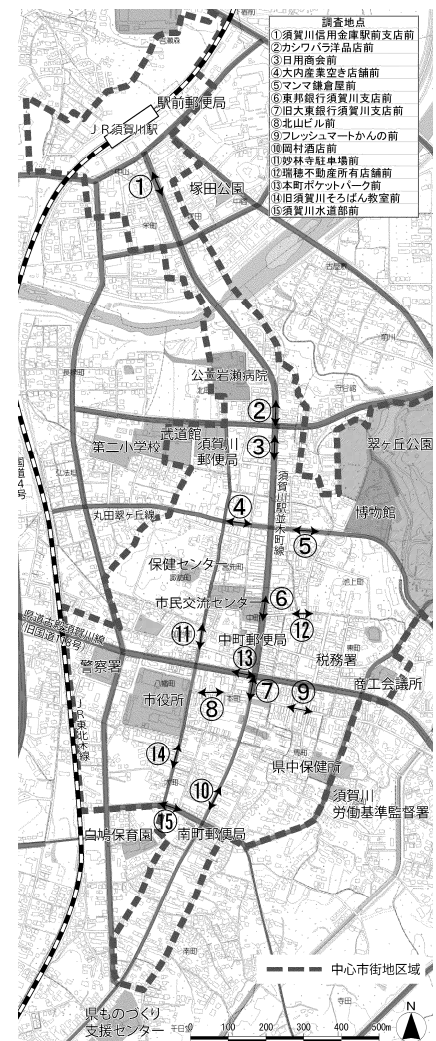
平日歩行者通行量（9：00～19：00。休日も同じ）は、平成 16 年度以降減少していたが、最低となった平成 24 年度以降は増加傾向にある。

平成 30 年度の通行量は、第 1 期基本計画において目標値設定の対象とした 9 地点の合計でみると 2,588 人/日、調査対象全 15 地点の合計でみると 3,750 人/日であり、第 1 期基本計画策定時に調査した平成 25 年度と比較するとそれぞれ、約 1.4 倍、約 1.5 倍となっている。

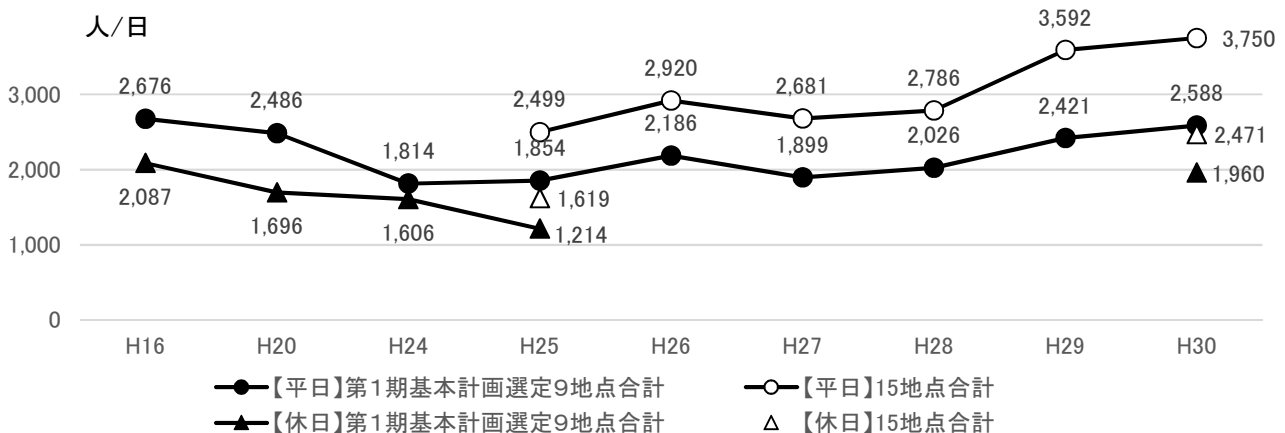
これには平成 29 年 5 月に開庁となった市庁舎の整備が大きな要因となっていると考えられ、平成 25 年度と比較すると全 15 地点で増加しているが、市庁舎周辺の 5 地点（旧大東銀行須賀川支店前、北山ビル前、妙林寺駐車場前、本町ポケットパーク前、旧須賀川そろばん教室前）で 100 人/日以上と特に大きな増加となっている。このほか、市民交流センター前の東邦銀行須賀川支店前でも 200 人/日以上増加しており、東日本大震災以降に活発化してきたイベントによるイメージ向上や、商店街のメイン通りである須賀川駅並木町線などへのウルトラマンのモニュメント設置などが、中心市街地への来街者の増加に影響していると考えられる。

平成 31 年 1 月の市民交流センターの開館に伴い更なる増加が見込まれる。

■ 通行量調査地点

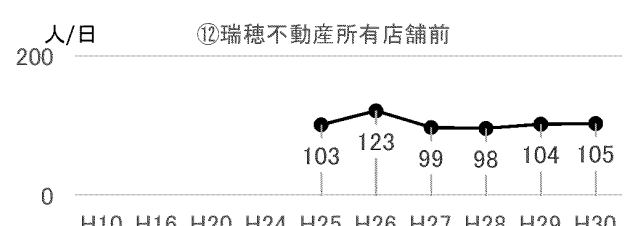
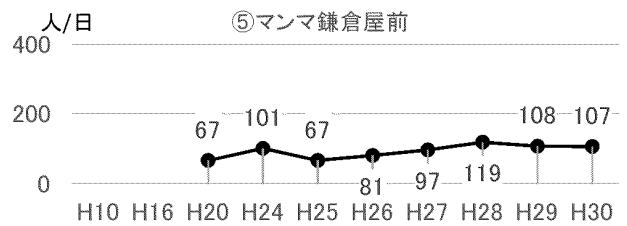
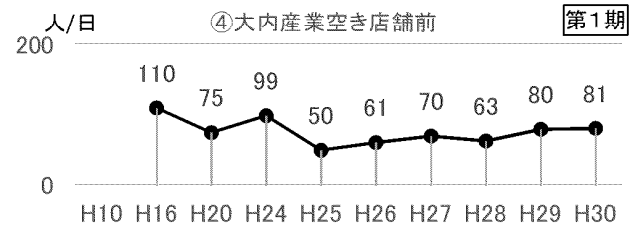
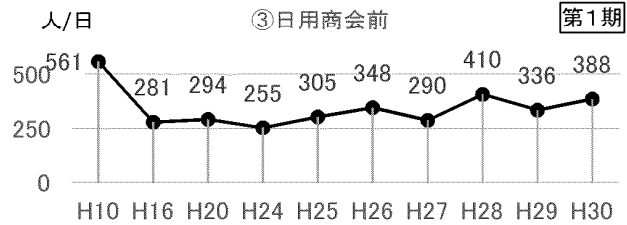
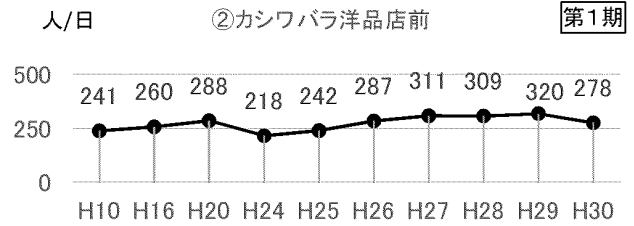
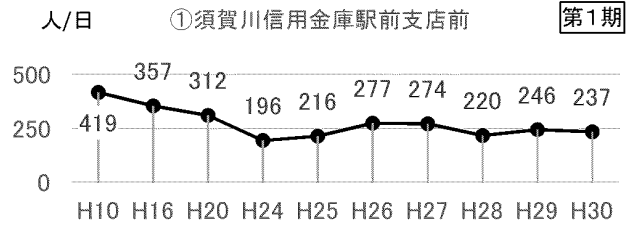


■ 歩行者通行量（9：00～19：00）の推移



■調査地点別平日歩行者通行量(9:00~19:00)の推移

※第1期：第1期基本計画選定9地点



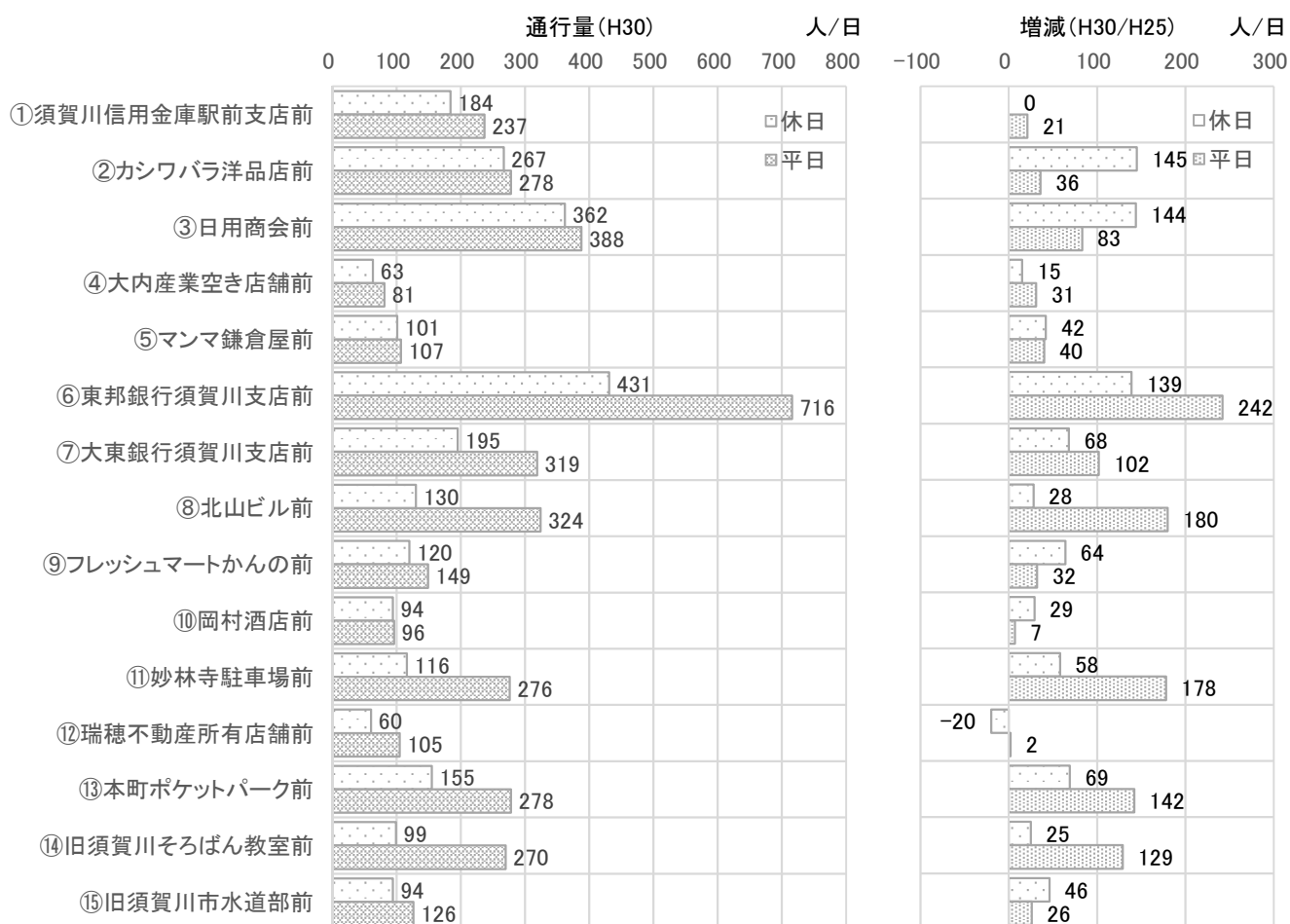
※妙林寺駐車場前における平成29年からの急増は、近くに設置された市民交流センター工事のための駐車場への関係者の往復などが大きく影響していると考えられる。

② 休日歩行者通行量

平成 30 年度の休日歩行者通行量は、平成 25 年度よりも増加している。

調査地点別にみても、須賀川信用金庫駅前支店前と瑞穂不動産所有店舗前以外の調査地点では増加している。しかし、全ての調査地点において、平日よりも少ない通行量となっており、休日も多くの人々が利用する市民交流センターの開館に伴う増加が期待される。

■調査地点別歩行者通行量(9:00~19:00)及び平成25年度から30年度の増加率



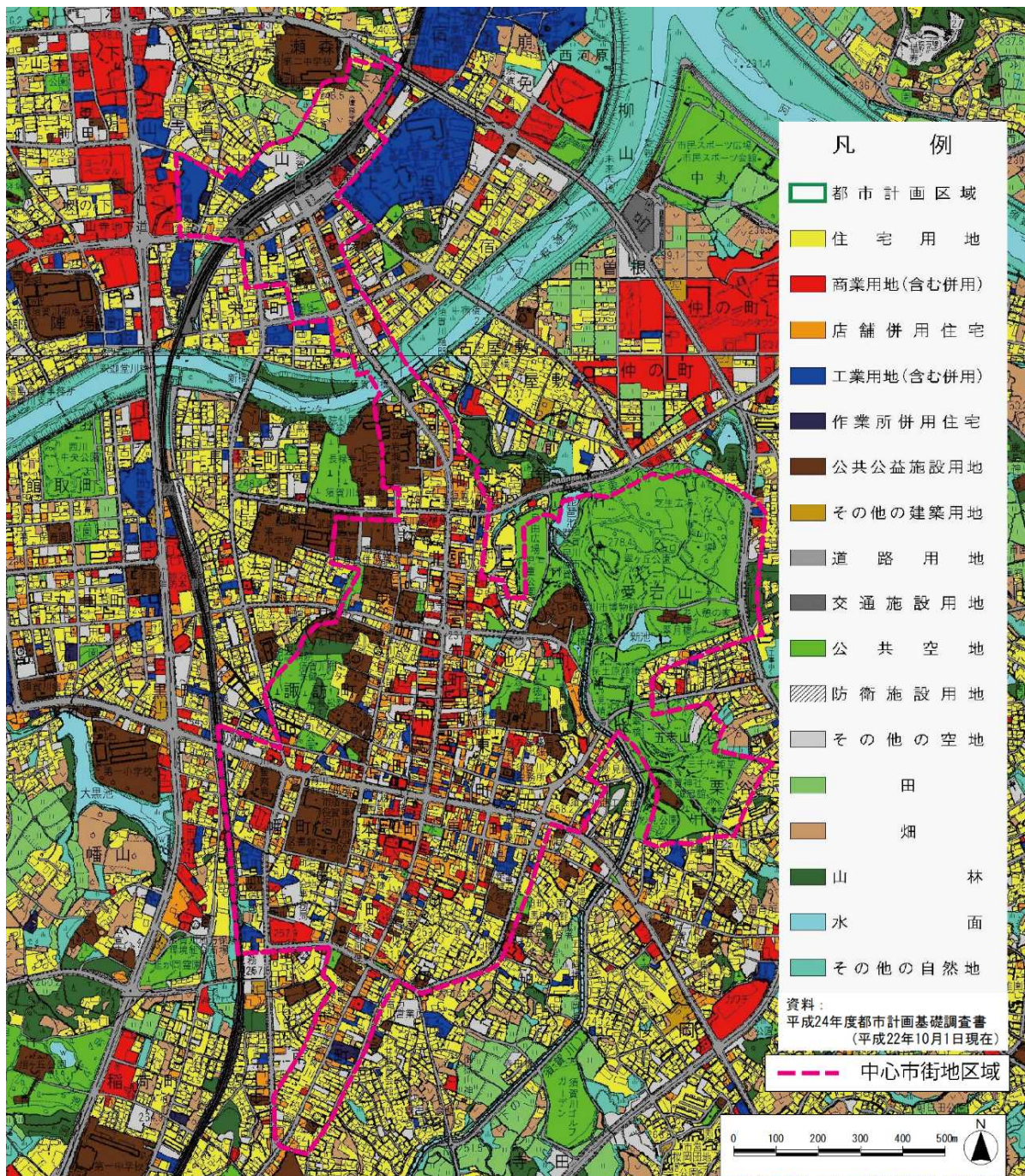
(6) 土地利用・主な公共公益施設の立地状況

- 中心市街地の大部分が商業系用途地域であり、商業系の土地利用がなされているが、低未利用地が多く存在する。
- 商業施設のほか、市役所をはじめとする公共公益施設が集積している。

① 土地利用

中心市街地内の土地利用をみると、須賀川駅並木町線や県道古殿須賀川線（旧国道 118 号）などの沿道を中心に商業用地や店舗併用住宅が集積している。また、公共公益施設用地も多く、大規模なものとしては市役所や第二小学校、公立岩瀬病院などがあげられる。住宅用地は、商業集積地の後背部のほか J R 須賀川駅周辺や南部地区、中心市街地周辺部にも多くみられる。

■土地利用現況図

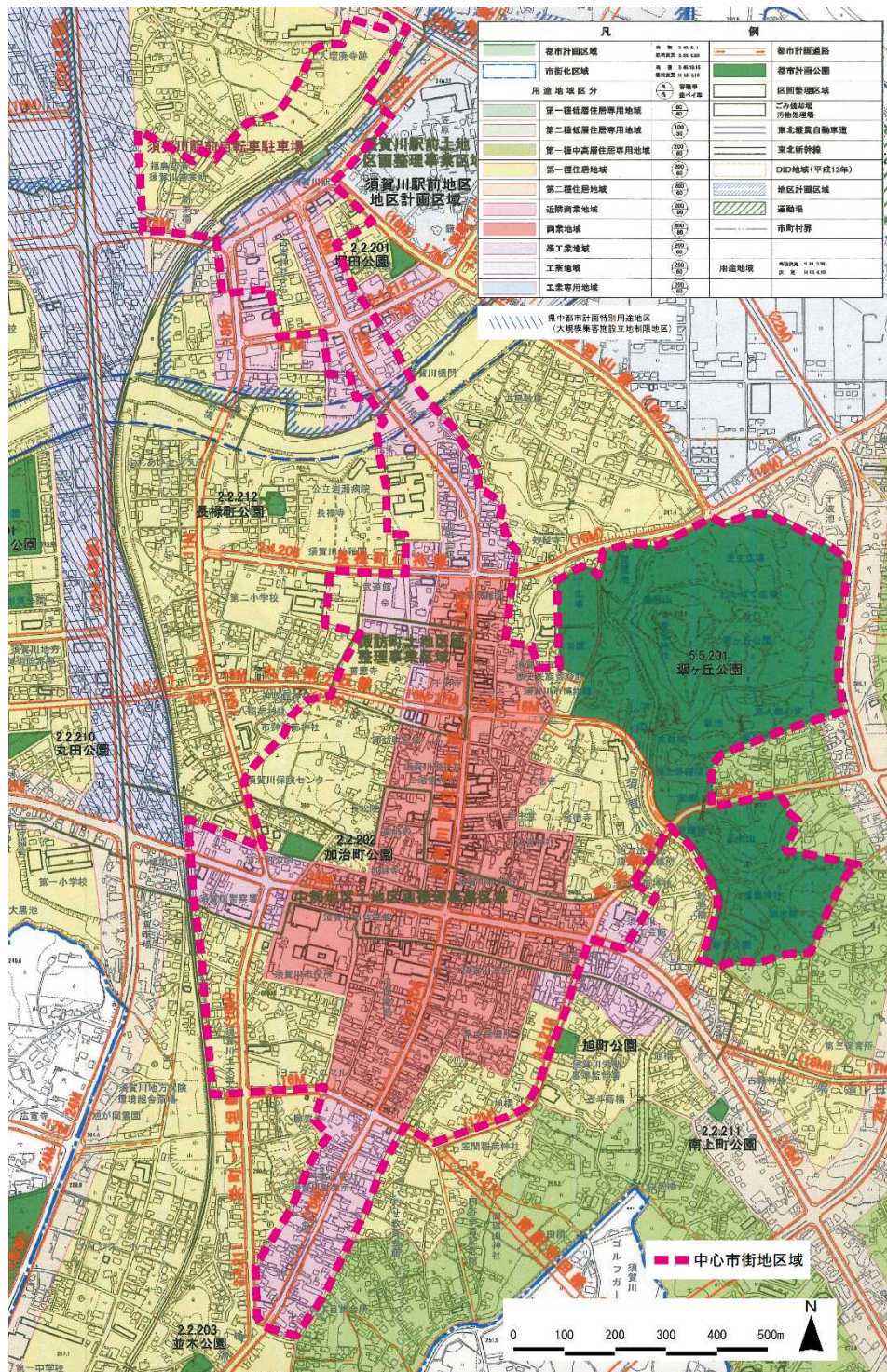


② 都市計画における位置付けなど

中心市街地は、全域が市街化区域に指定されている。用途地域は、骨格道路である須賀川駅並木町線と県道古殿須賀川線（旧国道 118 号）の沿道を中心に区域の大部分は商業系用途地域（商業地域、近隣商業地域）に指定されている。このほか、工業系は北東部の国道 4 号沿道の準工業地域のみで、住居系は J R 東北本線以北や弘法坦など、主に区域の縁辺部の一部に第一種、第二種住居地域が指定されている。

なお、区域内に含まれる 3 つの土地区画整理事業（釈迦堂川以北の須賀川駅前地区と、以南の中部地区及び諏訪町地区）はいずれも整備済みである。

■都市計画図



③ 主な公共公益施設など

中心市街地内には、多くの公共公益施設が集積している。

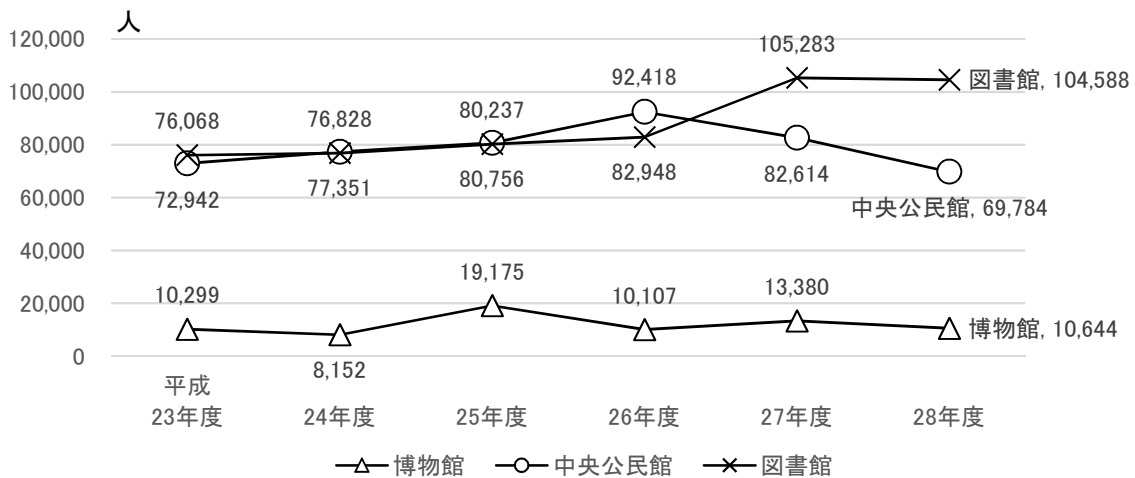
中央南部に位置する市庁舎は、震災で大きな被害を受けた施設を建替え、平成 29 年 5 月に開庁した。平成元年に市庁舎敷地内に整備された芭蕉記念館も大きな被害を受けたため平成 26 年度に解体された。現在は須賀川駅並木町線沿道のビルに移転し仮設運営されているが、新しい施設として芭蕉記念館の役割を継承しつつ、新たな機能を併せ持つ（仮称）文化創造伝承館の整備を進めている。

中心市街地のほぼ中央には、市民交流センターが平成 31 年 1 月に開館した。本センターは、東日本大震災で甚大な被害を受けた中心市街地の再生、活性化のため、「市民文化復興のシンボル」「中心市街地活性化の中核施設」としての役割を担う施設である。「人を結び、まちをつなぎ、情報を発信する場の創造」を基本コンセプトに、図書館や公民館などの生涯学習機能をはじめ、子育て支援、市民活動団体等支援、市民交流、賑わい創出など、多くの機能を有する複合施設である。

また、中央北部には、地域医療に大きな役割を果たしている公立岩瀬病院がある。平成 22 年度と 25 年度に老朽化した施設の建替えを行い、平成 29 年度には産科婦人科を開設するなど、今後も地域の中核医療施設として発展が期待できる。

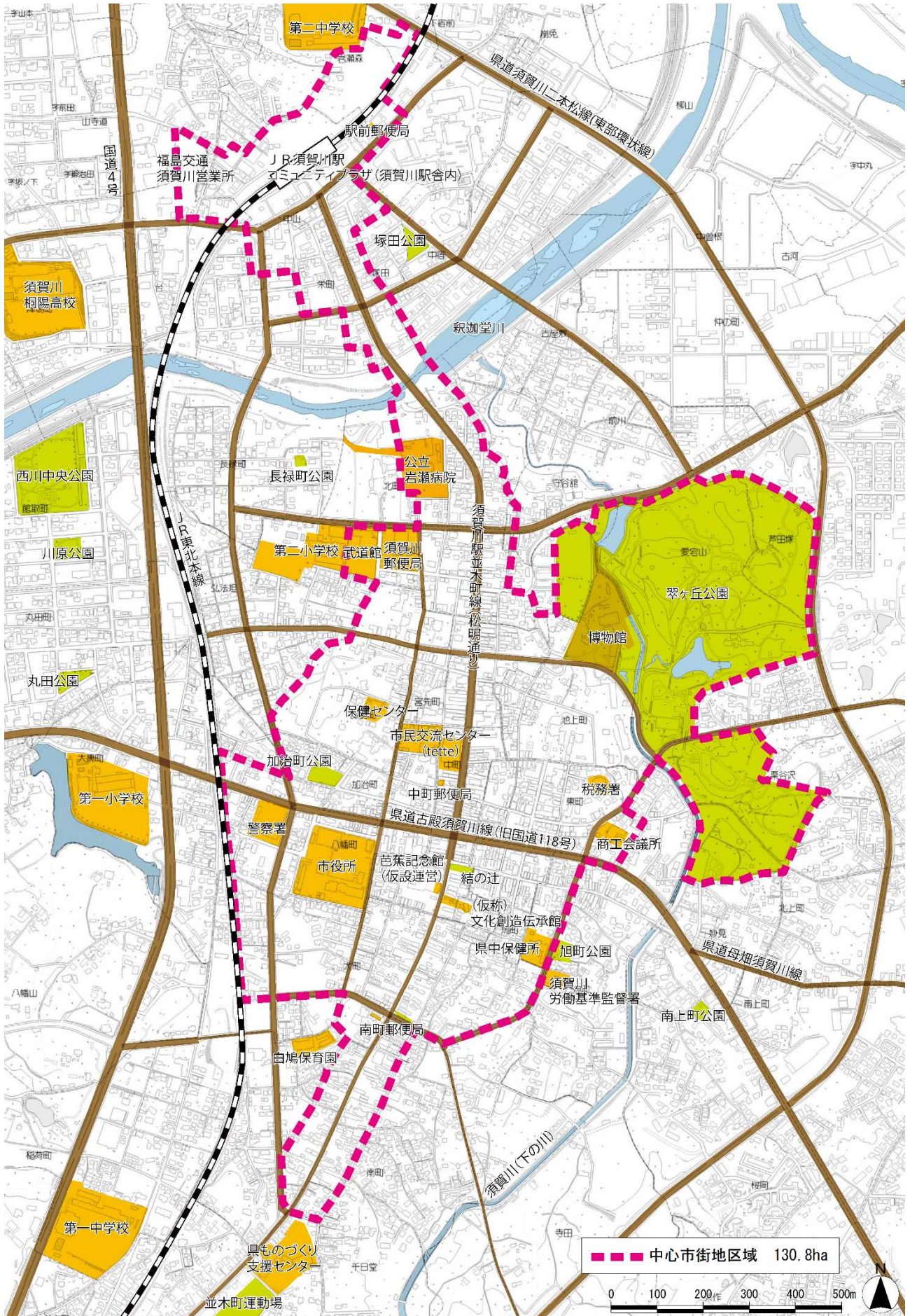
このほか、中心市街地内には、博物館、保健センター、武道館などの市の施設のほか、税務署、警察署、郵便局、商工会議所などが集積している。

■博物館、中央公民館、図書館の利用者数の推移



資料：博物館、生涯学習スポーツ課、図書館

■主な公共公益施設位置図



④ 低未利用地

平成 29 年現在、中心市街地内の低未利用地として、約 19,100 m²の空き地（内訳、釈迦堂川以北約 10,400 m²、以南約 8,700 m²）と、約 51,500 m²の駐車場（特定の住宅や店舗などの専用駐車場を除く。以下同じ。内訳、釈迦堂川以北約 12,800 m²、以南約 38,600 m²）が存在する。

第 1 期基本計画の区域内を対象として平成 25 年と比較すると、空き地は釈迦堂川の以北以南ともに減少しており、合計で約 1,700 m²の減少となっている。一方で、駐車場は釈迦堂川の以北以南ともに増加している。その面積は合計で約 5,300 m²あり、空き地から駐車場への転用も多くみられる。

■空き地・駐車場の状況

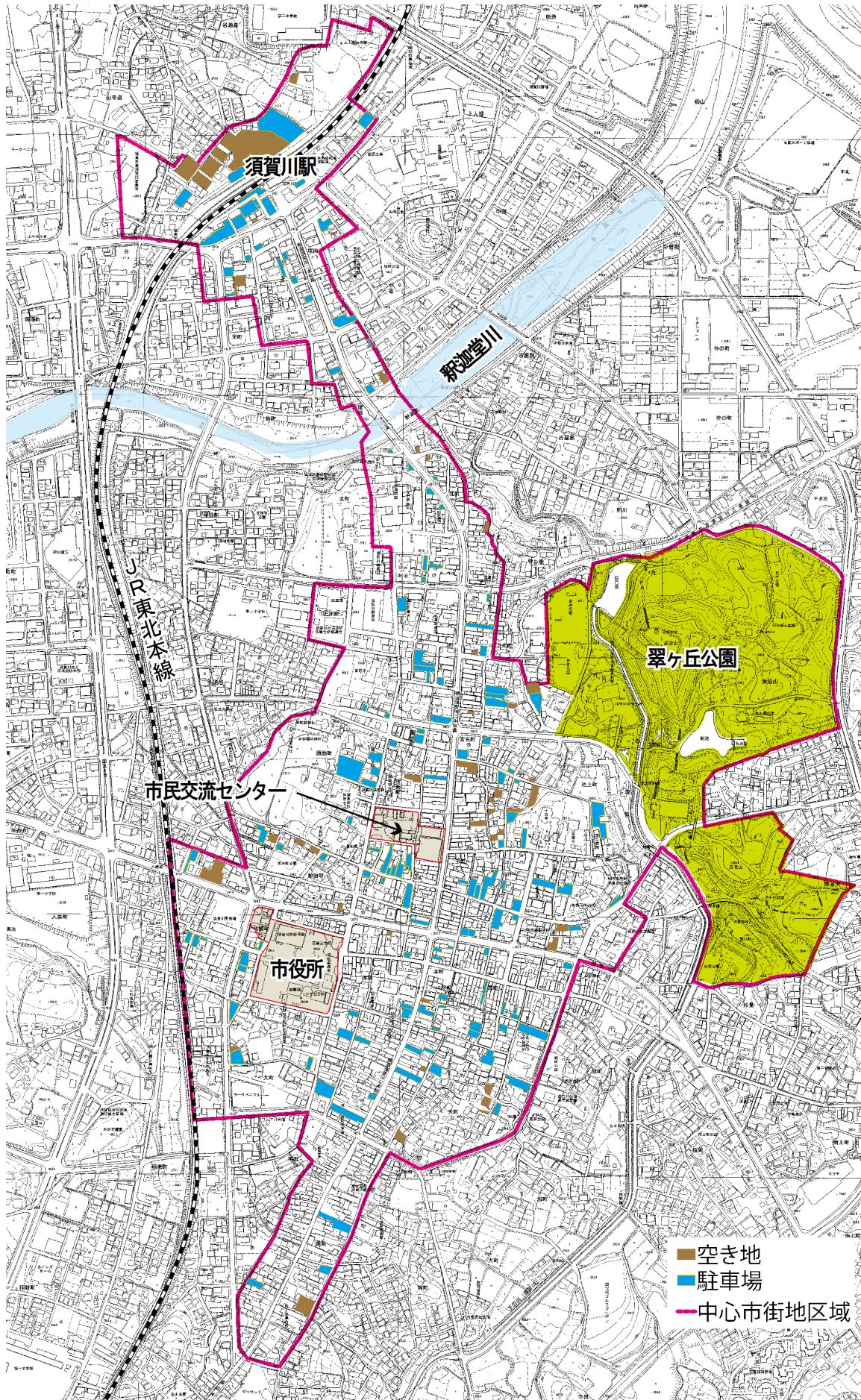
単位：m²

	町名	空き地			駐車場		
		H25 ※1	H29 ※2	増減 ※1	H25 ※1	H29 ※2	増減 ※1
釈迦堂川以北	岩瀬森	0.0	250.6	250.6	0.0	0.0	0.0
	栄町	473.6	473.6	0.0	1,518.9	1,647.4	128.5
	上人坦	0.0	0.0	0.0	0.0	608.8	0.0
	塚田	280.6	280.6	0.0	1,003.5	1,491.3	0.0
	中山	9,551.3	9,374.6	▲ 176.7	5,206.8	9,073.0	3,866.2
	山寺道	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	台	561.0	0.0	▲ 561.0	0.0	0.0	0.0
	小計	10,866.5	10,379.4	▲ 487.1	7,729.2	12,820.5	3,994.7
釈迦堂川以南	旭町	0.0	0.0	0.0	204.0	204.0	0.0
	池上町	1,857.9	1,379.0	▲ 557.4	1,593.2	3,403.3	115.4
	馬町	0.0	0.0	0.0	1,537.4	2,469.9	0.0
	大町	980.6	1,151.9	▲ 290.1	4,336.7	6,964.8	315.8
	上北町	740.4	534.8	▲ 205.6	4,396.5	4,209.9	▲ 186.6
	加治町	1,125.7	730.1	▲ 395.6	2,945.4	3,465.8	520.4
	北町	419.0	312.1	▲ 107.0	574.8	1,033.8	459.0
	諏訪町	0.0	0.0	0.0	3,970.3	3,970.3	0.0
	千日堂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中町	200.8	269.9	69.1	118.2	118.2	0.0
	八幡町	2,328.0	1,442.6	▲ 885.3	1,538.3	1,804.4	22.9
	東町	589.1	642.8	53.7	3,195.4	4,685.9	728.2
	宮先町	410.2	1,185.2	775.0	1,435.9	2,130.9	695.0
	南町	633.0	917.5	284.4	3,050.8	1,637.6	▲ 1,413.2
	守谷館	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
本町	93.7	129.4	35.7	2,535.0	2,535.0	0.0	
小計	9,378.2	8,695.2	▲ 1,223.0	31,431.6	38,633.6	1,256.9	
合計	20,244.6	19,074.5	▲ 1,710.1	39,160.9	51,454.1	5,251.6	

※1 中心市街地の第1期基本計画区域内

※2 中心市街地内

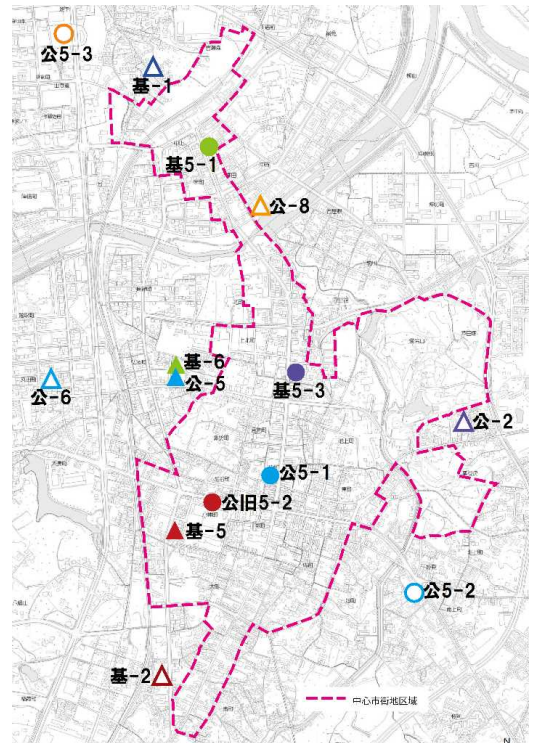
■低未利用地の分布状況



⑤ 地価など

中心市街地内の商業地で平成 30 年の地価が最も高いのは須賀川 5-1 の公示地価 46,100 円/㎡であり、周辺の国道 4 号沿道にある須賀川 5-3 の公示地価 51,600 円/㎡よりも低くなっている。平成 25 年と比較すると、須賀川 5-3 の地価は上昇しているのに対して、中心市街地内では全ての位置の地価は上昇しておらず、ほぼ同額の維持あるいは低くなっている。

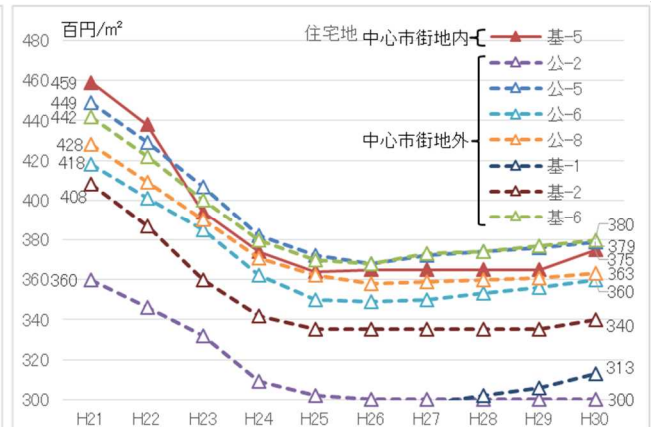
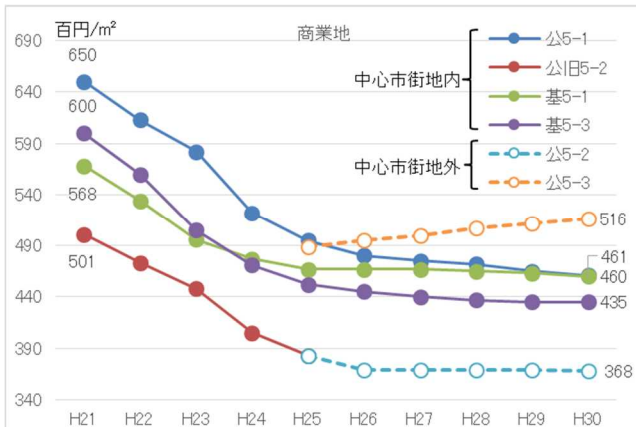
住宅地をみると、中心市街地内の須賀川-5 の平成 30 年の基準地価は 37,500 円/㎡となっており、周辺と比較すると高い額となっている。須賀川-5 も含めた周辺の住宅地の地価を平成 25 年と比較すると、ほぼ同額の維持か若干の上昇となっている。



■ 中心市街地周辺の地価の推移

中心市街地内外	地価	番号()内は図上表記	用途地域※	価格(100円/㎡)										価格(H25=1とした場合の指数)							
				H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H25	H26	H27	H28	H29	H30		
商業地	内	公示	須賀川5-1(公5-1)	商業	650	613	582	522	495	480	475	472	465	461	1.00	0.97	0.96	0.95	0.94	0.93	
		公示	旧須賀川5-2(公旧5-2)	商業	501	473	448	405	383							1.00					
		基準	須賀川5-1(基5-1)	近商	568	534	496	477	467	467	467	465	463	460	1.00	1.00	1.00	1.00	0.99	0.99	
	外	公示	須賀川5-3(基5-3)	商業	600	560	505	471	452	445	440	437	435	435	1.00	0.98	0.97	0.97	0.96	0.96	
		公示	須賀川5-2(公5-2)	2住					383	369	369	369	369	368	1.00	0.96	0.96	0.96	0.96	0.96	
住宅地	内	基準	須賀川5-5(基5-5)	1住	459	438	394	374	364	365	365	365	365	375	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.03	
		公示	須賀川-2(公-2)	1中高	360	346	332	309	302	300	300	300	300	300	1.00	0.99	0.99	0.99	0.99	0.99	
	外	公示	須賀川-5(公-5)	1住	449	429	407	382	372	368	372	374	376	379	1.00	0.99	1.00	1.01	1.01	1.02	
			須賀川-6(公-6)	1住	418	401	385	362	350	349	350	353	356	360	1.00	1.00	1.00	1.01	1.02	1.03	
			須賀川-8(公-8)	1住	428	409	390	371	362	358	359	360	361	363	1.00	0.99	0.99	0.99	1.00	1.00	
		基準	須賀川-1(基-1)	1住					290	294	298	302	306	313	1.00	1.01	1.03	1.04	1.06	1.08	
	外	基準	須賀川-2(基-2)	1住	408	387	360	342	335	335	335	335	335	340	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.01	
			須賀川-6(基-6)	1住	442	422	400	380	370	368	373	374	377	380	1.00	0.99	1.01	1.01	1.02	1.03	

※ 1 中高：第一種中高層住居専用地域 1 住：第一種住居地域 2 住：第二種住居地域 近商：近隣商業地域



資料：土地総合情報システム

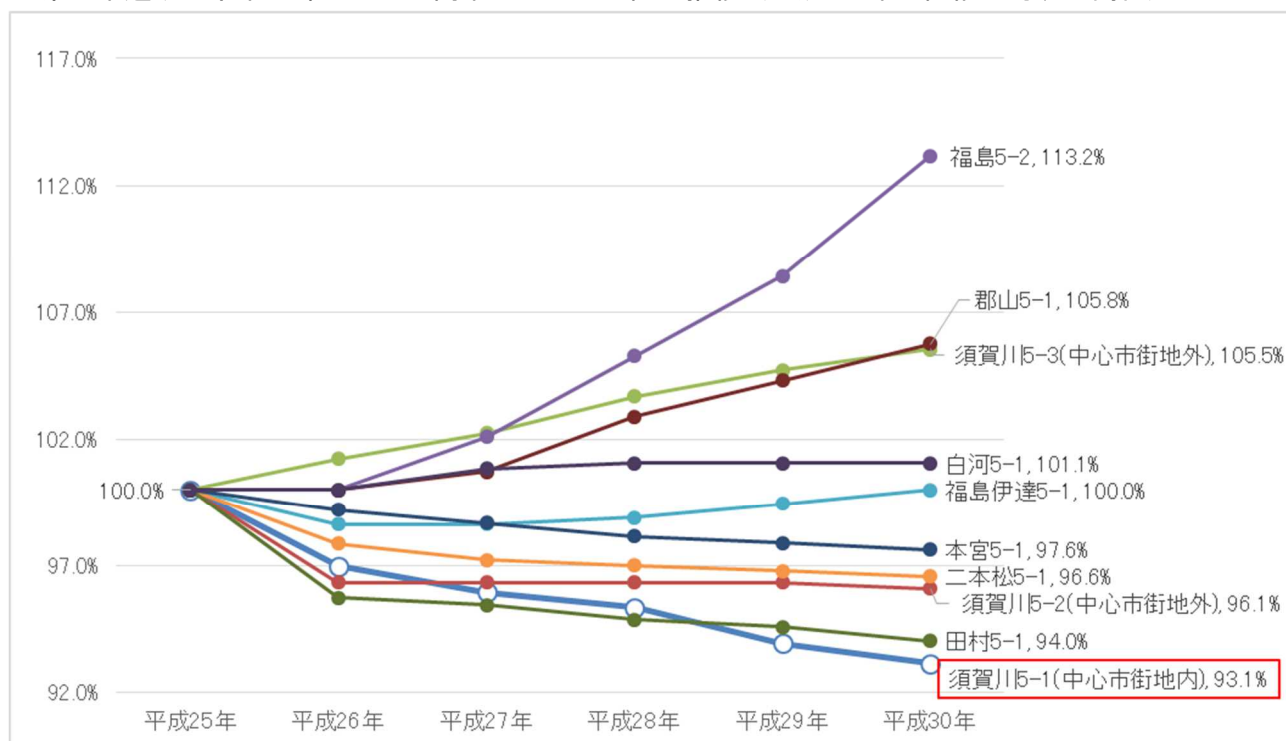
中通りにある他市と中心部の商業地地価を比較すると、本市の中心市街地の地価は福島市、郡山市、白河市の次に高い額となっているが、この4市の中で平成25年と比較して額が低くなっているのは本市の中心市街地のみである。さらに、本市の中心市街地は平成25年の額に対する平成30年の額の割合が中通りにある市の中で最も低くなっている。

■中通りの市中心部における商業地の公示地価の推移

	標準地番号	所在及び地番	価格(円/㎡)						平成25年の価格に対する割合					
			平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
須賀川市	須賀川5-1 (中心市街地内)	須賀川市中町11番	49,500	48,000	47,500	47,200	46,500	46,100	100.0%	97.0%	96.0%	95.4%	93.9%	93.1%
	須賀川5-2 (中心市街地外)	福島県須賀川市妙見122番2	38,300	36,900	36,900	36,900	36,900	36,800	100.0%	96.3%	96.3%	96.3%	96.3%	96.1%
	須賀川5-3 (中心市街地外)	福島県須賀川市西川字山本104番2外	48,900	49,500	50,000	50,700	51,200	51,600	100.0%	101.2%	102.2%	103.7%	104.7%	105.5%
福島市	福島5-2	福島市栄町10番2	190,000	190,000	194,000	200,000	206,000	215,000	100.0%	100.0%	102.1%	105.3%	108.4%	113.2%
伊達市	福島伊達5-1	福島県伊達市保原町字実町54番1	36,500	36,000	36,000	36,100	36,300	36,500	100.0%	98.6%	98.6%	98.9%	99.5%	100.0%
二本松市	二本松5-1	二本松市本町2丁目57番	46,800	45,800	45,500	45,400	45,300	45,200	100.0%	97.9%	97.2%	97.0%	96.8%	96.6%
本宮市	本宮5-1	本宮市本宮字荒町9番1	37,900	37,600	37,400	37,200	37,100	37,000	100.0%	99.2%	98.7%	98.2%	97.9%	97.6%
郡山市	郡山5-1	郡山市中町380番2	139,000	139,000	140,000	143,000	145,000	147,000	100.0%	100.0%	100.7%	102.9%	104.3%	105.8%
田村市	田村5-1	田村市船引町船引字五升車19番4	35,100	33,600	33,500	33,300	33,200	33,000	100.0%	95.7%	95.4%	94.9%	94.6%	94.0%
白河市	白河5-1	白河市大手町14番6外	47,400	47,400	47,800	47,900	47,900	47,900	100.0%	100.0%	100.8%	101.1%	101.1%	101.1%

資料：土地総合情報システム

■県内中通りの市中心部における商業地の公示地価の推移（平成25年の価格に対する割合）



(7) 交通環境

- JR 須賀川駅があり、近年の利用者数は東日本大震災前の数年を上回っている。また、区域内を通る路線バス、循環バスなども多く、市の中では公共交通を利用しやすい環境が整っている。
- 来街者の大部分は自家用車を利用している。区域内の時間貸駐車場は、駅前に立地するものとセンターパーキングのみであったが、近年は増加しており、現在は6カ所で収容台数 250 台となっている。

① 主な道路

中心市街地内の主な道路としては、JR 須賀川駅を起点とする須賀川駅並木町線が南北に、ほぼ中央部を東西方向に県道古殿須賀川線（旧国道 118 号）が通っている。

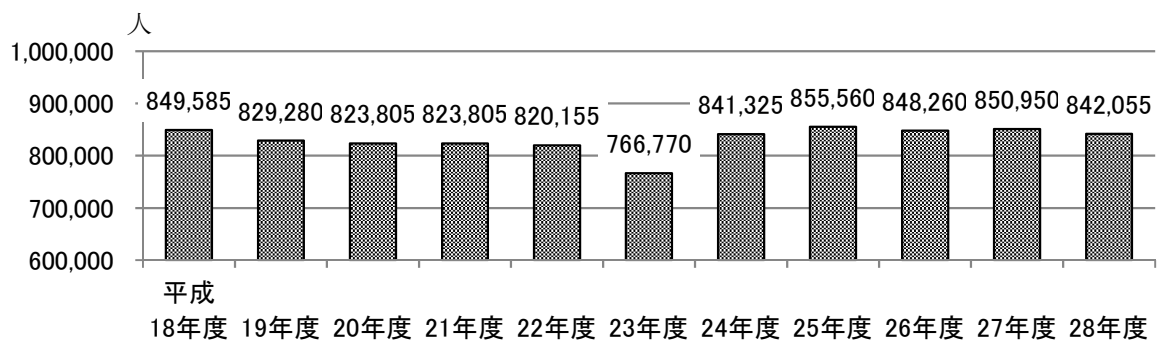
また国道 4 号、県道 138 号（母畑須賀川線）、県道 355 号（東部環状線）が周辺を通っており、東北縦貫自動車道須賀川 IC や福島空港へのアクセスも良い。

都市計画道路は、須賀川駅並木町線の県道古殿須賀川線以北と丸田翠ヶ丘線がほぼ整備済みである。

② 鉄道

中心市街地の北部には JR 須賀川駅があり、JR 東北新幹線が通る郡山駅までの所要時間が約 10 分、新白河駅までの所要時間が約 30 分と利便性に富んでいる。年間の乗車人員数は、東日本大震災前の数年間は 82 万人台で推移し、震災のあった平成 23 年度には約 77 万人に減少したが、近年は震災前を上回る 85 万人前後で推移している。

■ JR 須賀川駅の乗車人員数の推移



資料：東日本旅客鉄道(株)仙台支店 福島支店・東日本旅客鉄道(株)ホームページ

JR 須賀川駅と、市役所やその周辺の商店街とは約 1 km の距離があり、約 20m の標高差もあるため、徒歩での移動には難がある。

③ バス

ア) 高速バス

JR須賀川駅の西に福島交通須賀川営業所があり、高速バスの停留所となっている。本市は、本営業所を発着あるいは経由する高速バスによって、福島市、郡山市、仙台市のほか、新宿、新越谷、名古屋、京都、大阪などと結ばれている。

イ) 路線バス

本市の路線バスのルートは、中心市街地の北部にあるJR須賀川駅前を発着点として、中心市街地の骨格である須賀川駅並木町線を通るルートが多くあり、JR須賀川駅前や、中心市街地のほぼ中央に位置する須賀川中町や宮先町のバス停には20以上の行き先別バスが発着している。

■路線バス路線図



ウ) 市内循環バス

路線バスと同様に、中心市街地の北部にあるJR須賀川駅前を発着点として中心市街地を通る東西2つの経路で市内循環バスが運行されている。

運行日は平日と年末年始・祝日を除く土曜日で、平日でみると東循環は須賀川駅前6時台発から18時台着まで計10便、西循環は須賀川駅前8時台発から18時台着まで計14便が運行されている。

■市内循環バスの運行経路

【東循環バス】

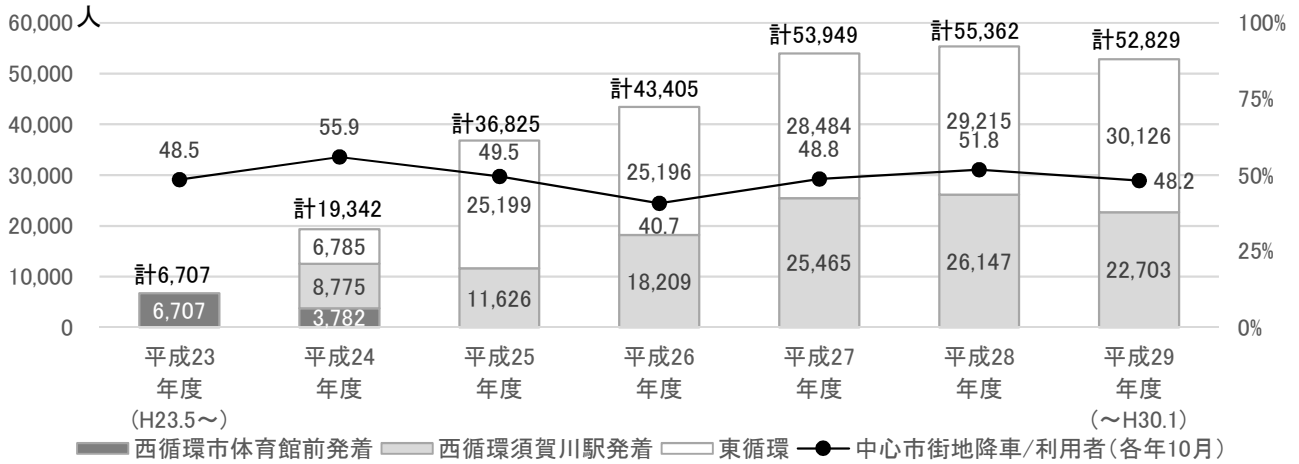


【西循環バス】



市内循環バスは平成27年度以降年間5万人を超える利用があり、このうち、約半数が中心市街地（須賀川駅前、栄町、公立病院前、北町、宮先町、中町、須賀川市役所、市役所入口、上八幡町、六軒入口、稲荷町入口、並木町）で降車している。

■市内循環バスの利用者数と中心市街地での降車人数割合の推移

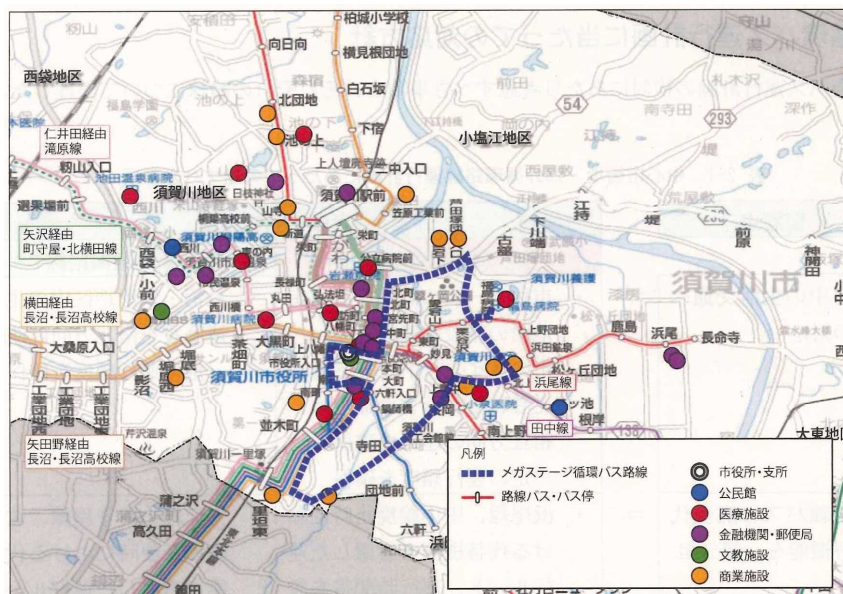


エ) メガステージ循環バス

中心市街地の南にあるショッピングセンター「メガステージ須賀川」内に立地する株式会社ヨークベニマルと、開発業者である株式会社アクティブワンが主体となり、同ショッピングセンターと中心市街地などを循環するルートで、マイクロバスを運行している。もともとは市中心部に位置していたヨークベニマルが、同ショッピングセンター内に移転するに伴い、利用者への配慮のため平成20年2月より運行が開始された。

利用料は無料で利用対象者に制限はない。ヨークベニマル前9時30分発から16時30分発まで、およそ1時間ごとに1日7便（無休）が運行されている。

■メガステージ循環バス路線図



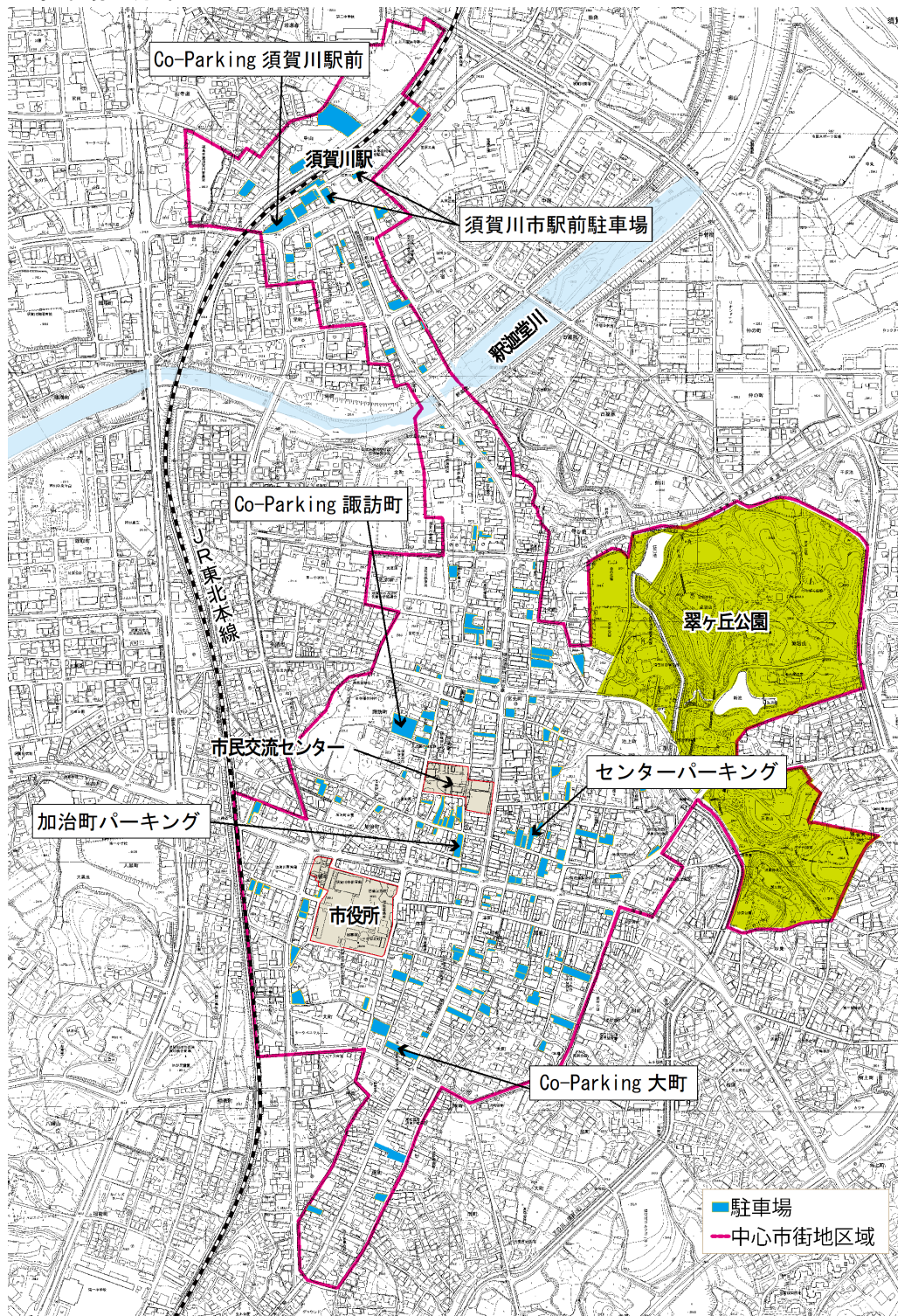
④ 駐車場・駐輪場

中心市街地内の駐車場（特定の住宅や店舗などの専用駐車場を除く。以下同じ）は平成 29 年現在約 51,500 ㎡あり、第 1 期基本計画区域内だけでも平成 25 年から約 5,300 ㎡増加している。

時間貸駐車場としては、J R 須賀川駅前に市営の須賀川市駅前駐車場、中心市街地のほぼ中央に中央商店街振興組合運営のセンターパーキングのほか、まちづくり会社であるこぷろ須賀川が運営する Co-Parking などがある。

公営の駐輪場としては J R 須賀川駅前に市営の自転車等駐輪場がある。

■ 駐車場の分布



⑤ レンタサイクル

須賀川観光協会では、平成20年度から観光でまちなかを訪れた方のために「レンタサイクル（貸出自転車）」事業を実施していたが、平成28年1月より休止中である。実施中は須賀川駅前自転車等駐車場、牡丹会館に、計8台（須賀川駅前自転車等駐車場に5台、牡丹会館に3台）の貸出用自転車を配置していた。

現在は、駅前駐車場の指定管理者であるシルバー人材センターが自主事業として自転車の貸し出しを行っている。

⑥ 乗合タクシー

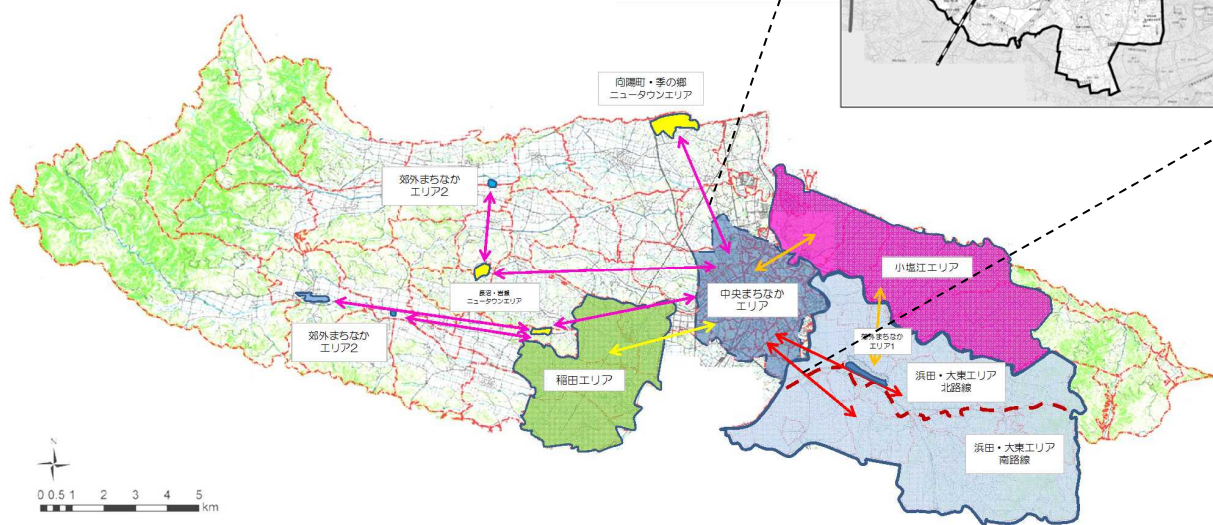
本市では、バスなどの利用が不便な地域の利用者を対象として須賀川市乗合タクシー事業を行っている。乗合タクシーは複数の利用者による「乗合方式」で自宅などから目的地までの送迎を行っている。

利用できる区域は限定されているが、乗合タクシーを使えば、郊外のバス不便地域から、中心市街地を含む中央まちなかエリアへの移動も可能となっている。

■中央まちなかエリア拡大図



■運行エリアイメージ図

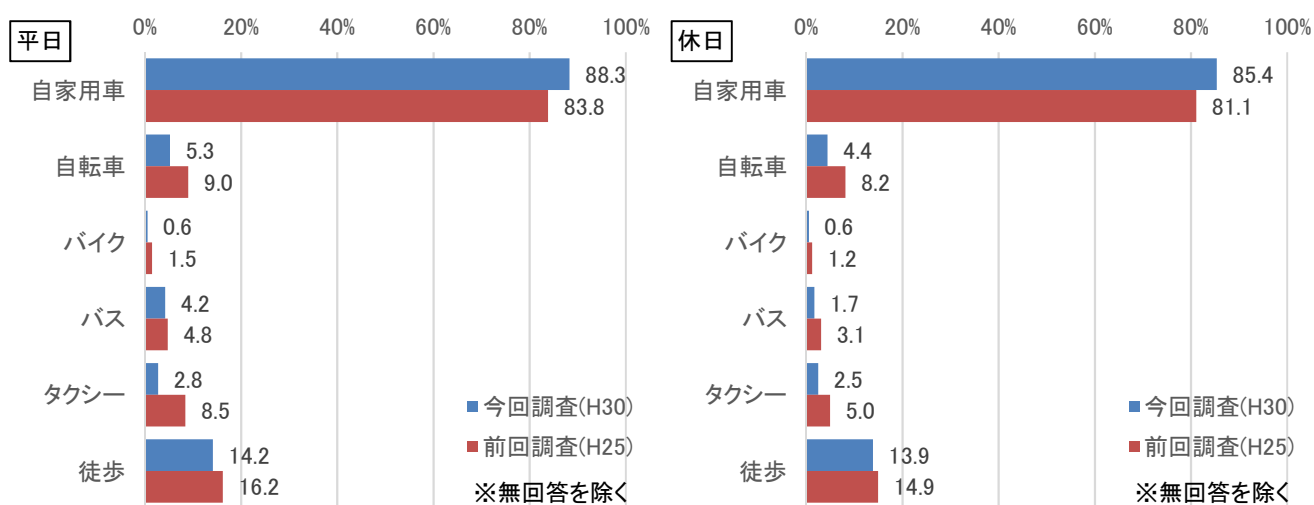


⑦ 交通手段

本計画策定に合わせて平成30年に実施した「中心市街地活性化に関する市民アンケート調査」では、中心市街地に出かける交通手段としては自家用車が最も多くあげられている。回答割合は平日、休日ともに85%以上で、平成25年に実施した前回調査と比較しても高くなっている。また、中心市街地で進めて欲しいハード事業の3位には「自動車で訪れやすい環境」があげられている。

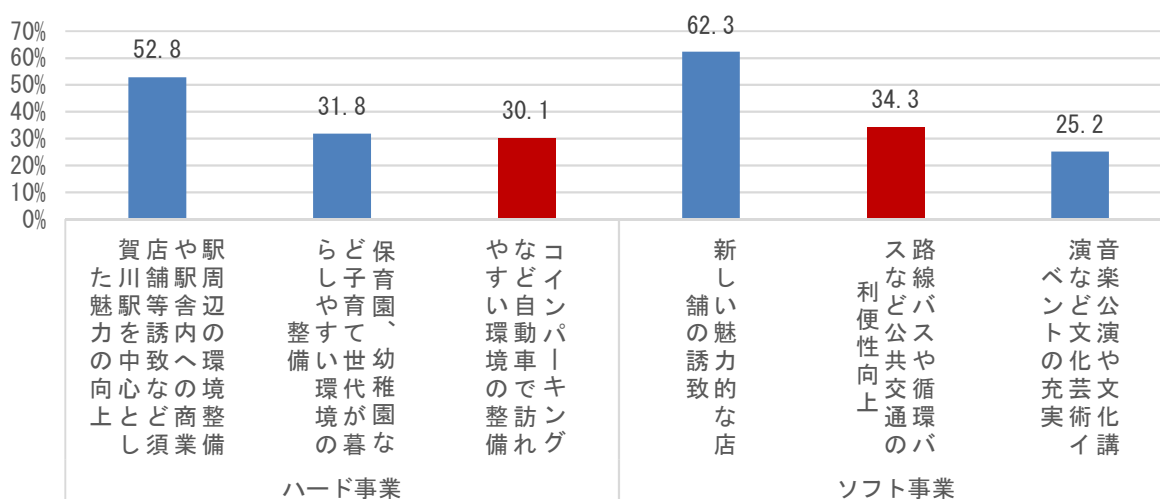
一方で、中心市街地で進めて欲しいソフト事業の2位に「公共交通の利便性向上」があげられていることから、市民の高齢化も踏まえると、中心市街地においては自動車で訪れやすい環境整備とともに公共交通による利便性の向上にも配慮していく必要があると思われる。

■中心市街地に出かける交通手段



資料:「中心市街地活性化に関する市民アンケート調査」

■中心市街地で進めて欲しい事業（上位3項目）



資料:「中心市街地活性化に関する市民アンケート調査(H30)」

(8) 歴史的・文化的資源、観光・イベントなど

・中心市街地内には、上人壇廃寺跡、神炊館神社をはじめとする歴史的・文化的資源が多数存在し、松明あかしや須賀川市釈迦堂川花火大会には多くの観光客が訪れている。ウルトラマンを活用したまちづくり、市民交流センターや（仮称）文化創造伝承館の整備により、より多くの観光客が訪れることが期待される。

① 歴史的・文化的資源など

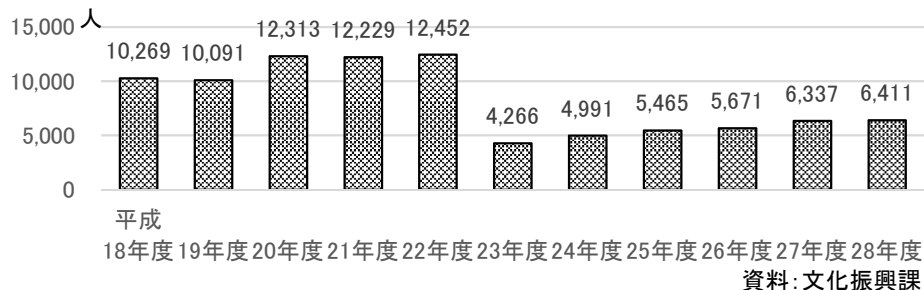
J R須賀川駅の北には、奈良時代の官寺的な性格を有する国指定史跡「上人壇廃寺跡」、J R須賀川駅南には奈良・平安時代の役所跡であったと推定される石背郡衙「栄町遺跡」があり、当地方を統括する要衝の地であったと窺える。

須賀川城址（本丸跡）は、現在、二階堂神社として継承されている。

このほか、中心市街地内及び周辺には、神炊館（おたきや）神社、勝誓寺、長祿寺、普應寺、千用寺、長松院、妙林寺、十念寺、金徳寺など多くの神社仏閣がある。

俳人松尾芭蕉は「おくのほそ道」で須賀川に8日間滞在した。芭蕉記念館は、平成元年に須賀川の俳句振興と文化の拠点として、当時の市役所入口の北側に建設されたもので、福島県内では唯一の芭蕉ゆかりの施設であり、平成20年度から22年度は毎年12,000人強の一般来館者があった。しかし、この芭蕉記念館は東日本大震災による被災のため平成26年度に解体され、現在は須賀川駅並木町線沿道のビルで仮設運営されている。なお、芭蕉記念館の役割を継承しつつ、新たな機能を併せ持つ（仮称）文化創造伝承館の整備を現在進めている。

■ 芭蕉記念館一般入館者数の推移



市役所周辺の南部地区では、“風流”をキーワードに歴史・文化を生かした風流で潤いのあるまちづくりが取り組まれており、景観にも配慮した広場「結の辻」が整備されるなど、まちづくり協定によるまちの景観の保全や整備が進められている。

中心市街地の中心を通る須賀川駅並木町線のJ R須賀川駅から南町郵便局交差点間は、電線の地中化が行われており、良好な沿道景観となっている。また、沿道には数か所のポケットパークが整備されており、市街地の中の憩いのスポットとしても機能している。

中心市街地の東部に位置する「日本の都市公園100選」にも選定されている翠ヶ丘公園は、市街地に隣接した美しい自然景観を創出している。特に、公園内を流れる須賀川（下の川）の両岸は約1 kmにわたる桜並木があり、良好な景観資源となっている。

中心市街地の南東部には、昭和7年に国の名勝に指定されている須賀川牡丹園があり、近年は年間約5万人の観光客が訪れている。

② イベントなど

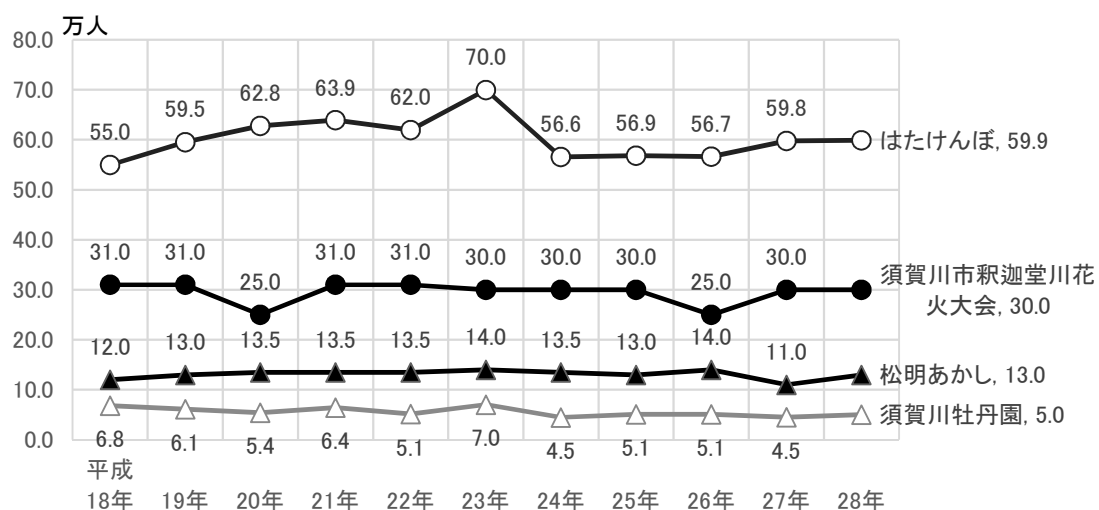
中心市街地東に位置する翠ヶ丘公園内五老山を会場として、毎年11月の第2土曜日に日本三大火祭りの一つである松明あかしが開催されている。会場となる翠ヶ丘公園内の五老山では、山頂において約30本もの本松明と須賀川城を模した仕掛け松明に次々に点火される。中心市街地内においても、長さ10メートル、重さ3トンもある大松明が、若者達によって担がれ練り歩くなど賑わいを見せる。この松明あかしと、毎年、8月下旬の土曜日に開催されている須賀川市釈迦堂川花火大会は、県内でも多くの観光客の入込数があるイベントとなっており、平成29年はそれぞれ約13万人、約30万人が訪れている。

このほか、中心市街地では、毎年7月14日に開催され、市民に親しまれている「きうり天王祭」や、同日に開催される「夏祭り」、市立博物館と商店会が連携した「雛人形展（雛の笑顔に会えるまち）」、「馬町八日市」、「あきんど祭り」、「すかがわ食彩 地産地消 食の感謝祭」、「おはよう青空市場」など、様々なイベント等が開催されている。東日本大震災後の平成27年6月からは、市内の若手有志がボランティアで運営する手作り市「すかがわの路地 de マーケット Rojima」が、毎月第2日曜日に本町を中心とした路地や空き店舗などで開催されており、賑わいを見せている。

さらに、本市は“特撮の神様”と称される円谷英二監督の出身地であることから、平成25年5月5日にウルトラマンの故郷「M78 星雲光の国」と姉妹都市提携し、仮想の住民登録や各種イベントの情報発信等ウルトラマンを活用したまちづくりに取り組んでいる。中心市街地においても、JR須賀川駅前や須賀川駅並木町線沿道、市庁舎などにウルトラマンのモニュメント整備などを行っている。

また、中心市街地周辺にあるJA夢みなみが運営する農産物直売所であるはたけんぼには、年間約60万人弱が訪れている。

■主な観光資源の観光客入込数の推移



■ 中心市街地に整備されたウルトラマンのモニュメント等

須賀川駅前や松明通りには
ウルトラヒーローや怪獣たちが!

須賀川駅のタペストリーや街路灯

須賀川駅前にはオリジナルウルトラマンモニュメントが! ▶

中心市街地のモニュメント

須賀川市の中心市街地・松明通りにはウルトラヒーローや怪獣のモニュメントが11体立ち並んでいます。

資料：「須賀川市暮らしのガイドブック（2017年度保存版）」

■ 行事・イベント

	名称	時期	場所	
2月	初寅大祭	旧正月初寅の日	長松院境内	
4月	須賀川さくらまつり	4月上旬～下旬	翠ヶ丘公園内	
	宇津峰山開き	29日	宇津峰登山口	
	須賀川牡丹園開園	～5月	牡丹園内	
5月	すかがわ国際短編映画祭	中旬の土曜日・日曜日	文化センター	
7月	きうり天王祭	14日	南町地内お仮屋	
	市民よさこい・盆おどり大会	15日	松明通り	
8月	釈迦堂川花火大会	下旬の土曜日	市民スポーツ広場	
	長沼まつり	第2土曜日	長沼地区金町通り	
9月	須賀川秋祭り	第2土曜日・日曜日	神炊館神社(諏訪神社)	
	10月	梓衝神社の太鼓獅子舞	旧暦の閏年 10月第1日曜日	梓衝神社
	10月	円谷幸吉メモリアルマラソン大会	第3日曜日	須賀川アリーナ、松明通りなど
10月	いわせ悠久まつり	10月下旬	岩瀬市民サービスセンター前駐車場	
	11月	松明あかし	第2土曜日	翠ヶ丘公園五老山
		牡丹焚火	第3土曜日	牡丹園内

中心市街地又はその周辺で行われるイベント

資料：市HPなど

(9) まちづくり活動

- 主なまちづくり関連組織としては、須賀川商工会議所のほか、株式会社こぷろ須賀川、NPO 法人チャチャチャ 21、須賀川知る古会などがある。
- 中心市街地活性化に向けた大きな役割を期待され平成 25 年に設立された株式会社こぷろ須賀川は、中心市街地に不足する駐車場の運営や空き店舗対策等を実施。

中心市街地では、きうり天王祭とこれと同日に開催される夏祭り、市立博物館と商店会が連携した雛人形展（雛の笑顔に会えるまち）、馬町八日市、あきんど祭り、すかがわ食彩 地産地消 食の感謝祭、おはよう青空市場など、様々なイベント、催しが民間によって開催されている。

主なまちづくり関連組織としては、須賀川商工会議所のほか、株式会社こぷろ須賀川、NPO 法人チャチャチャ 21、須賀川知る古会などがある。

株式会社こぷろ須賀川は、第 1 期基本計画策定に合わせて、市及び商工会議所を発起人として平成 25 年に設立された、今後の中心市街地活性化に大きな役割を果たしていくことになるまちづくり会社である。現在は中心市街地において大きな課題となっている駐車場不足を踏まえたコインパーキングの運営や、同じく課題となっている新規出店者が借りやすい物件（家賃が安く、小スペースなど）不足を踏まえ、現時点では賃貸市場に出ていない空き店舗や空き家をリノベーションし、新規出店者などに案内するリノベーションプロジェクトなどに取り組んでいる。

■株式会社こぷろ須賀川の概要

●平成 25 年 5 月 2 日 設立

●活動主旨

東日本大震災により大きな被害を受けた須賀川市中心市街地の復旧・復興を図るため、公益性と企業性の両面を持つまちづくり会社として各種まちづくり事業に取り組む。

●主な沿革

	沿革内容
平 25	須賀川商工会議所及び須賀川市を発起人として、外 19 社の賛同出資を受け設立 須賀川商工会議所とともに須賀川市中心市街地活性化協議会を設立
平 28	リノベーションプロジェクトにより改修した店舗を活用した「Co-Kitchen 軒の 栗ダイニング」の営業を開始
平 29	中心市街地の駐車場不足と回遊性向上を目指したコインパーキング「co-parking」 の運営を諏訪町と大町で開始